

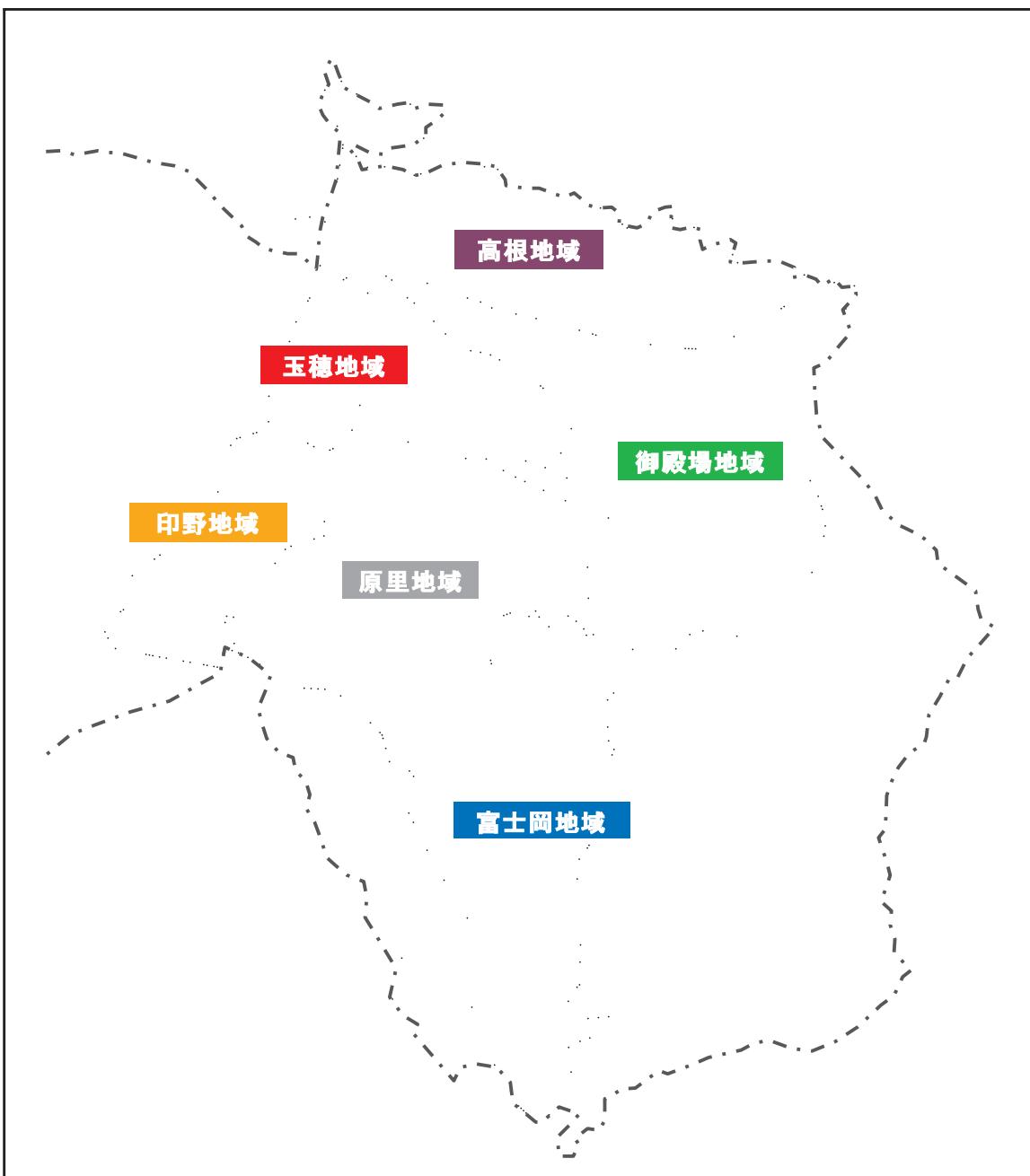


第5章 地域別構想

— 第5章 地域別構想 —

地域別構想は、全体構想を踏まえ、市内を6つの地域に区分して、地域の概況と課題、地域のまちづくり方針を示します。

〈御殿場地域〉、〈富士岡地域〉、〈原里地域〉、〈玉穂地域〉、〈印野地域〉、〈高根地域〉



■地域区分図

5-1 御殿場地域

(1) 地域の概況と課題

1) 地域の概況

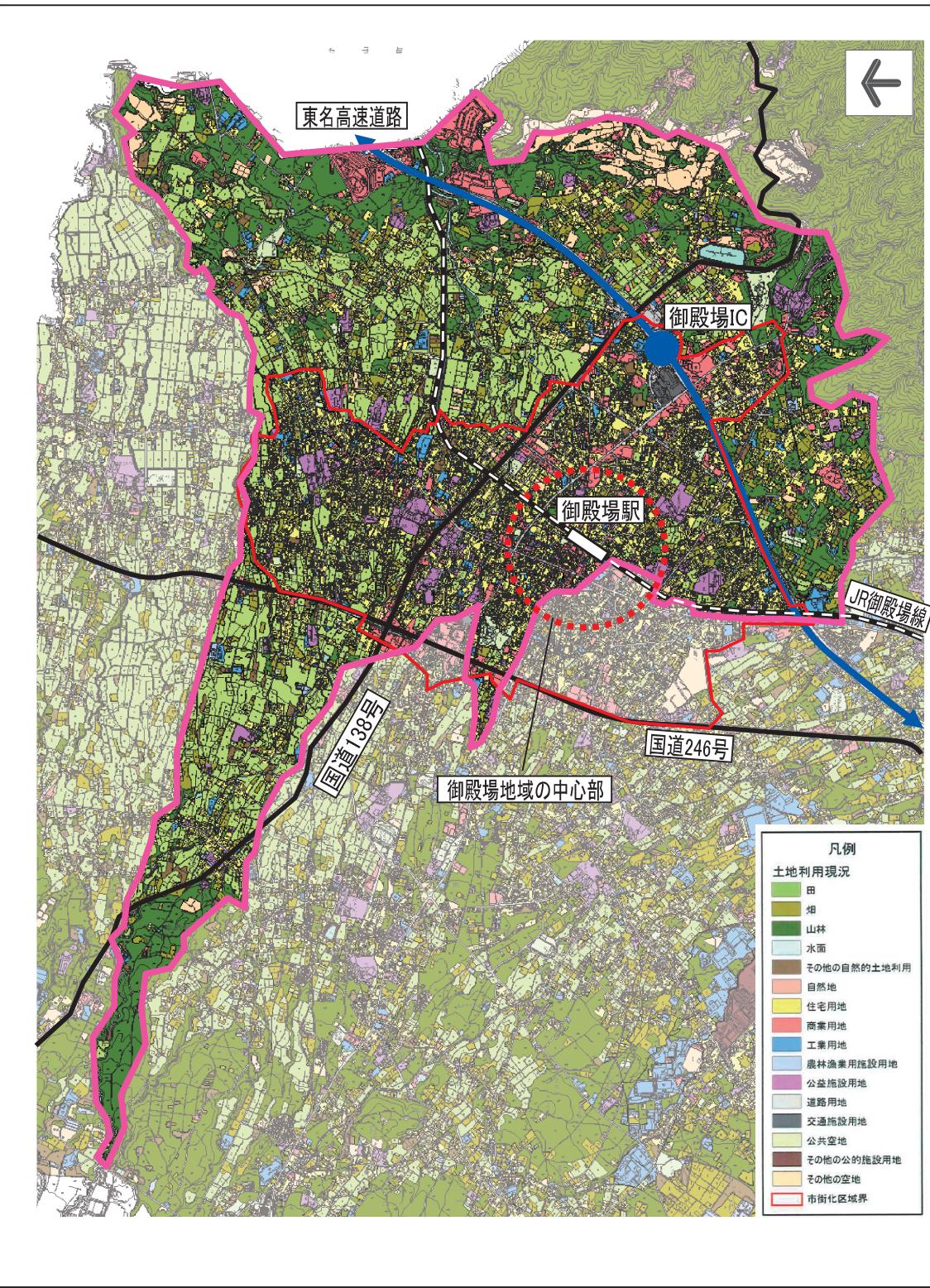
本地域の東側、箱根山麓地域は本市の近代史の舞台として、秩父宮公園を始め別荘が建ち並び、御殿場プレミアムアウトレットやゴルフ場など、首都圏方面からの観光・交流・保養ゾーンとなっています。

市街化区域内のJR御殿場駅を中心とした地区は、本市の中心市街地として都市型住宅と商業・業務施設、公共公益施設が立地し、その周辺は良好な住環境の住宅市街地を形成しています。

また、国道246号、138号沿い及び東名高速道路の御殿場インターチェンジ周辺は、ロードサイド型の商業施設やサービス産業施設が立地しています。

人口状況		注) 人口は都市計画基礎調査、高齢化率は平成22年4月の住民基本台帳の数値			
地域人口(人)		人口増加率(平成12~17年)		高齢化率(65歳以上)	
平成12年	平成17年	本地域	市平均	本地域	市平均
約29,800	約32,000	107%	103%	17.8%	18.2%
<ul style="list-style-type: none">平成12年から17年の5年間で、本地域の人口は約7%増加しています。本地区の高齢化率は17.8%と本市の全体に比べ低くなっています。					
主要施設					
<ul style="list-style-type: none">東名高速道路国道138号 ((都)深沢中畑線)国道246号 ((都)高根富士岡線)(主)御殿場大井線新橋公園 0.10ha馬車道公園 0.20ha二の岡公園 0.40ha二枚橋公園 0.23ha永原公園 0.50ha南ふれあい自然公園 0.78ha東田中富士見公園 0.93ha鮎沢公園 0.20ha(都)御殿場高根線(都)東部幹線(都)茱萸沢棚頭線(都)御東原循環線(都)新橋深沢線(都)御殿場駅前通り線(都)東田中鮎沢1号線(都)東田中鮎沢2号線新橋せせらぎ公園 0.38ha御殿場中央公園 4.35ha秩父宮記念公園 6.08ha					
供用済合計 14.15ha (1人当たり公園面積 4.42 m ² 市平均 2.72 m ² /人)					
地域の主な景観					
 東山旧岸邸			 平和公園		
 御殿場プレミアムアウトレット			 秩父宮記念公園		

- 市街化区域内は、住宅地が主体となっていますが、JR御殿場駅周辺や国道246号、138号沿いに商業集積があるほか、公益施設用地、工業用地が点在しています。
- 市街化調整区域内の平地部は農地が主体となっており、地域東部から南部の箱根外輪山は主に人工林、西部の富士山山麓は主に自然林となっています。

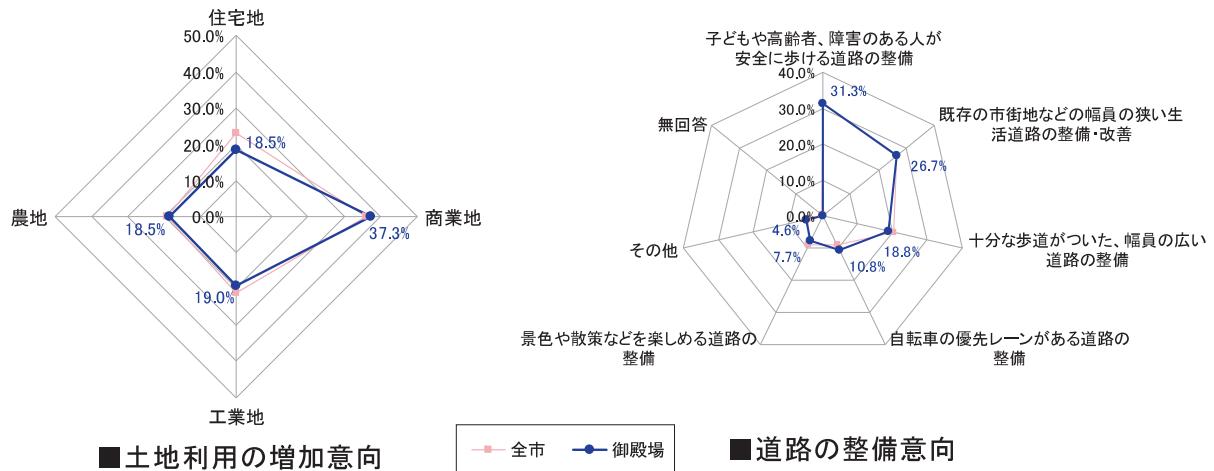


■土地利用現況図（御殿場地区）

《まちづくりに関する市民ニーズ》

○全市と御殿場地域との比較（市民アンケート調査の主な結果）

- ・商業地の増加に関する意向が、全市よりも高くなっています。
- ・歩道の整備や幅員の狭い生活道路の整備・改善に関する意向が、全市よりも高くなっています。



○比較的ニーズが高い項目（30%を超える施設整備のニーズ、市民アンケート調査結果）

- ・子どもや高齢者、障がいのある人が安全に歩ける道路の整備（31.3%）
- ・自然を満喫できる公園の整備（33.9%）
- ・生き物や植物が多い自然豊かできれいな川の整備（35.6%）
- ・公共交通（バス）の必要性は、今は重要ではないが、将来を考えると必要（69.7%）

○地域別説明会における主な意見

- ・市街化区域の割合を増やしてほしい。
- ・新東名インターチェンジや関連道路の完成前に、無秩序な開発を未然に防ぐ手立てをしてほしい。
- ・深沢新駅はエコ社会の観点からも地域に必要な施設であるので、是非進めてほしい。
- ・（都）御殿場高根線、（都）御東原循環線など、新東名インターチェンジと中心市街地を結ぶ重要な都市計画道路については、計画決定だけでなく事業の実施に向けた取り組みをしてほしい。
- ・東大路線の歩道設置など、歩行者の安全対策を早期に取り組んでほしい。

2) 御殿場地域の主な課題

《安心定住》に関する地域の主な課題

- 少子・高齢化、人口減少社会への対応
 - ・良好な住環境の形成
 - ・誰もが安心して利用できる公園の整備
- 都市計画道路等の都市施設の整備
 - ・未整備な都市計画道路の整備
 - ・歩道の整備
 - ・公共交通の利用促進とバリアフリー化
- 防災と減災への両面からの対応
 - ・市街地や集落地の防災性の向上

《自然》に関する地域の主な課題

- 自然環境と調和した活力あるまち
 - ・箱根外輪山及びその裾野部に広がる樹林地の転換と保全
 - ・河川の浄化、親水性の確保

《活力》に関する地域の主な課題

- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・J R 御殿場駅周辺の都市拠点としての再生
- 生産性の高い農業の育成
 - ・深沢地区などにおける農用地の整備

《交流》に関する地域の主な課題

- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・深沢城跡などの歴史資源の活用
 - ・箱根外輪山山麓の観光・レクリエーション機能の向上
 - ・トンボ池等の自然環境の活用
 - ・御殿場コミュニティセンター隣接地や遊休地などの活用
 - ・滞在型施設^{※1}の立地検討

※1：宿泊を伴う施設。レジャー・レクリエーション施設に宿泊施設の併設したもの、もしくは宿泊施設が単独で立地したもの。

(2) 御殿場地域のまちづくり方針

御殿場地域のまちづくりのテーマ

緑の風・湧水がしみる街、ごてん場

～まちづくりの基本的な考え方～

御殿場の発祥から現在に至るまでの求心性を将来にわたっても維持していくとともに、深沢城跡、東山湖、秩父宮公園等の観光・レクリエーション機能、東田中鮎沢地区等の居住機能、JR御殿場駅周辺の商業業務機能、JR御殿場駅、東名高速道路御殿場インターチェンジ及び新東名高速道路(仮称)御殿場インターチェンジの交通拠点機能など、多彩な機能が調和したまちづくりを図っていきます。

《安心定住》に資する整備の方針

- ・国道138号と国道246号が交差している北東部一帯と地域南部の一部は、戸建て住宅を主体とした低層住居を中心とし、ゆとりある居住環境を確保した市街地形成を目指します。
- ・商業業務ゾーン及び低層住宅ゾーンを除く市街化区域は、一般住宅ゾーンとして、潤いに満ちた計画的な住宅市街地の形成を目指します。
- ・地域内外の円滑な移動を確保するため、(都)新橋深沢線などの都市計画道路の整備を推進し、幹線道路等の道路ネットワークの形成を図ります。
- ・JR御殿場駅や公共施設の周辺などは、子どもや高齢者、障がい者が利用しやすい歩道の設置や段差の解消等のバリアフリー化を推進します。
- ・御殿場高校第二グラウンド跡地は、公共・公益施設の立地を視野に土地利用を検討します。
- ・本地域の市街地や集落地など建物が密集する地区は、道路の拡幅や建築更新時における壁面後退を促進します。
- ・交通結節点であるJR御殿場駅を中心に、バス等の公共交通の利用促進に向けた検討を進めます。
- ・東大路線(市道0216号線)を利用する歩行者の安全確保のため、歩道の整備を積極的に推進します。

《自然》に資する整備の方針

- ・箱根外輪山及びその裾野部に広がる樹林地は、人工林から自然林への転換を図るとともに、自然保全ゾーンとして、自然保全とともに人々が集うことのできる憩いの場の創出を検討します。
- ・鮎沢川、抜川などの河川は、河川浄化に努めるとともに、親水機能や都市景観との調和など、河川の環境を高めることを目指した整備を図ります。

《活力》に資する整備の方針

- ・JR御殿場駅を中心とする商業・業務ゾーンは、駅近くにおける商業施設の誘導などによる買物利便性の向上、都市型住宅や公共公益施設等の計画的な立地を図るなど、都市機能の集積を図ります。

- ・JR御殿場駅周辺は、誰もが安全で利用しやすい交通環境に向けて、都市計画道路、駐車施設等の都市施設の計画的整備のほか、バリアフリー構想の実現を目指します。
- ・JR御殿場駅を中心とする都市拠点においては、富士山を活かした景観整備、湧水の利活用、「馬車道」等由緒ある名前に因んだ通りの整備、ランドマーク^{※1}となるモニュメントの検討、電線類の地中化^{※2}、特定地区の高層建築物の立地抑制の検討などにより、街の顔として、魅力ある景観を形成していきます。
- ・駅東地区まちづくり懇話会等の活動を促進し、住民主体の活力ある住み良いまちづくりを促進します。
- ・国道246号以西の仁杉、北久原、栢ノ木の田園地、畠地等は、農業生産機能の向上とともに、市街地近郊の立地条件を活かし、農業に親しむことのできる場の提供と居住環境の保全を図ります。
- ・地域東部の深沢地区の田園地は、市街地近郊の農業の維持及び生産性の向上を図るため、休耕地の有効利用を図るとともに、ほ場整備を推進します。
- ・深沢地区においては、地域住民の要望にあわせ、新駅設置について検討します。
- ・スマートインターチェンジの設置の可能性について検討を進めます。

《交流》に資する整備の方針

- ・深沢城跡は、歴史上の史跡、旧跡が残されている（主）^{※3}御殿場大井線（旧関本街道）の沿道（歴史街道）とともに、本市の歴史拠点として位置づけ、史跡の保存、案内板の設置等を図っていきます。
- ・富士山に対面する箱根外輪山の裾野に立地する交流ゾーンについては、首都圏等市外からの観光客の誘致に向けて、自然環境との調和を図りつつ観光・リクリエーション施設の立地を適切に誘導し、滞在型の観光客の誘致や、市民の交流施設等の整備を図ります。
- ・地域東部の足柄サービスエリア西側のトンボ池は、自然豊かな公園として拡充整備を行います。
- ・（都）御東原循環線の桜並木の整備による良好な景観の形成を図ります。
- ・御殿場地区コミュニティセンター周辺は、歴史拠点として整備を検討します。
- ・東山旧岸邸と青少年会館跡地付近は、歴史・文化を活かした交流機能の向上を図るため、風致地区の指定も視野に交流拠点として整備を検討します。
- ・本地域南部の二の岡地区は、箱根山麓の滞在型施設の立地に向けて、アクセス道路の整備とともに、自然環境と調和した適切な開発を誘導します。
- ・国道138号沿道に道の駅等を設置し、地場産品の販売促進と通過交通の滞留促進により地域の活性化を図ります。

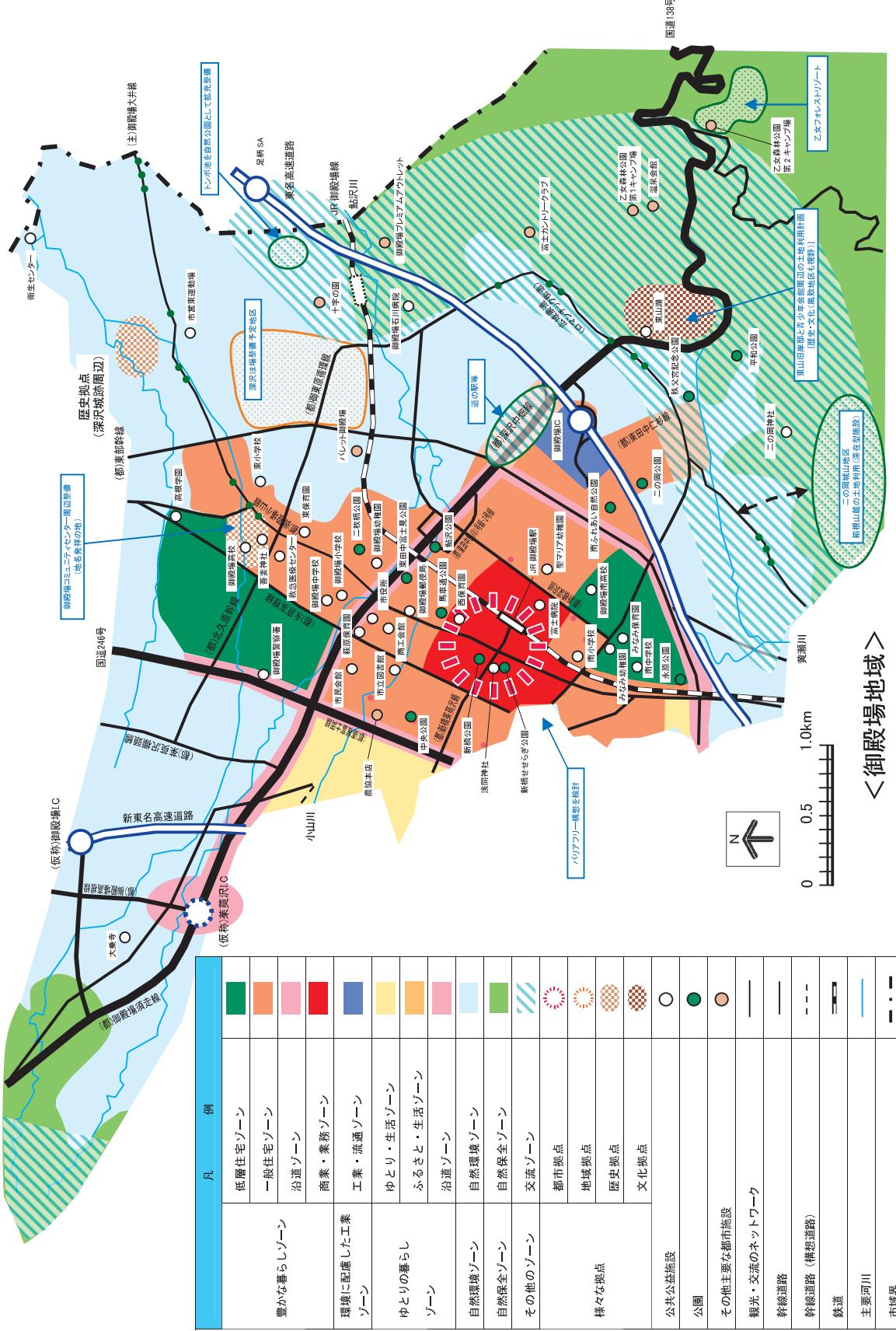
《重点整備の方針》

- 市街地のバリアフリー化と公共施設周辺の歩道整備
- 滞在型施設、道の駅などの拠点整備
- 御殿場駅東地区の駅前広場、（都）新橋深沢線へのアクセス道路の整備
- （都）新橋深沢線、（都）御東原循環線、（都）御殿場高根線の早期整備
- （都）御東原循環線の桜並木の整備による良好な景観の形成

※1：モニュメント、特徴のある建物・構造物のように容易にそれと気づくことのできるようなもの。

※2：電線（電力線・通信線等）および関連施設を地中に埋設すること。

※3：主要地方道の略。



主)上記の図は、隣接地域の施設も記載されている場合があります。

5-2 富士岡地域

(1) 地域の概況と課題

1) 地域の概況

地域東側は、箱根外輪山の豊かな自然環境に接しており、広域農道（ロマンチック街道）沿いには、観光資源となる優れた眺望地点や景観資源があります。

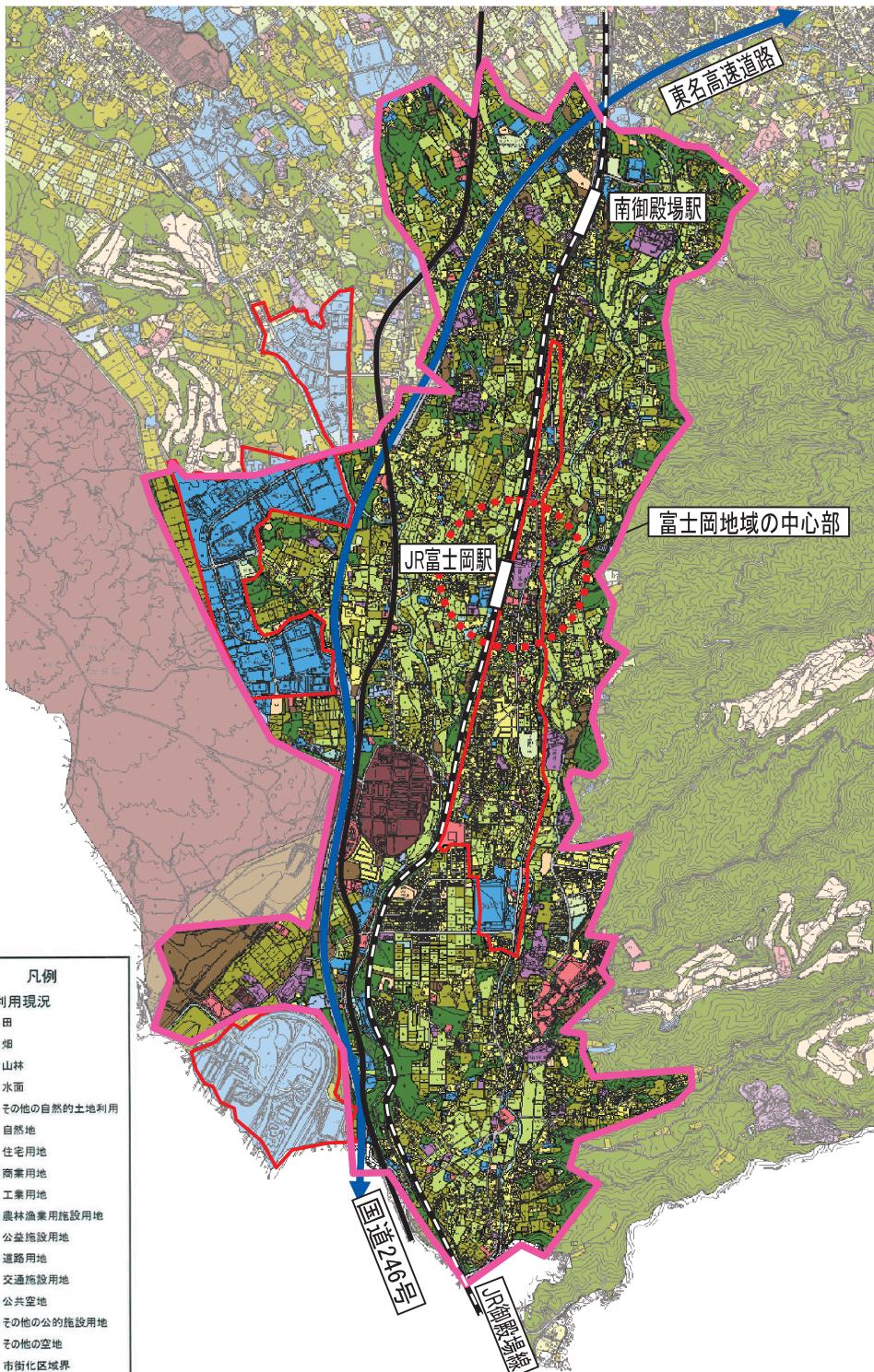
また、自然に恵まれた黄瀬川などの河川や点在する周辺の湧水池などは親水空間を形成しています。

一方、市街化区域内のJR富士岡駅周辺は、本市の地域拠点として、富士岡支所周辺を中心に、公益施設や生活利便施設、住宅地等が立地しています。

地域西部には駒門工業団地が整備され、緑に囲まれた産業環境を形成しています。

人口状況		注) 人口は都市計画基礎調査、高齢化率は平成22年4月の住民基本台帳の数値							
地域人口(人)		人口増加率(平成12~17年)		高齢化率(65歳以上)					
平成12年	平成17年	本地域	市平均	本地域	市平均				
約12,100	約12,500	103%	103%	17.9%	18.2%				
<ul style="list-style-type: none">平成12年から17年の5年間で、本地域の人口は約3%増加しています。本地区の高齢化率は17.9%と本市の全体に比べ低くなっています。									
主要施設									
・東名高速道路		・(都)駒門西部幹線線							
・国道246号 ((都)高根富士岡線)		・広域農道 (ロマンチック街道)							
・富士岡公園 1.84ha		・駒門公園 1.48ha							
供用済合計 3.32ha (1人当たり公園面積 2.67m ² 市平均 3.10m ² /人)									
地域の主な景観									
 駒門の風穴			 駒門工業団地						
 時之栖			 (仮称)新東名高速道路駒門ジャンクション						

- JR富士岡駅周辺の市街化区域は北部が住居系地区、南部が工業系地区となっています。
- 地域西部は駒門工業団地が立地しています。
- その他の地域は田・畑・山林などの自然的土地利用が主体となっています。

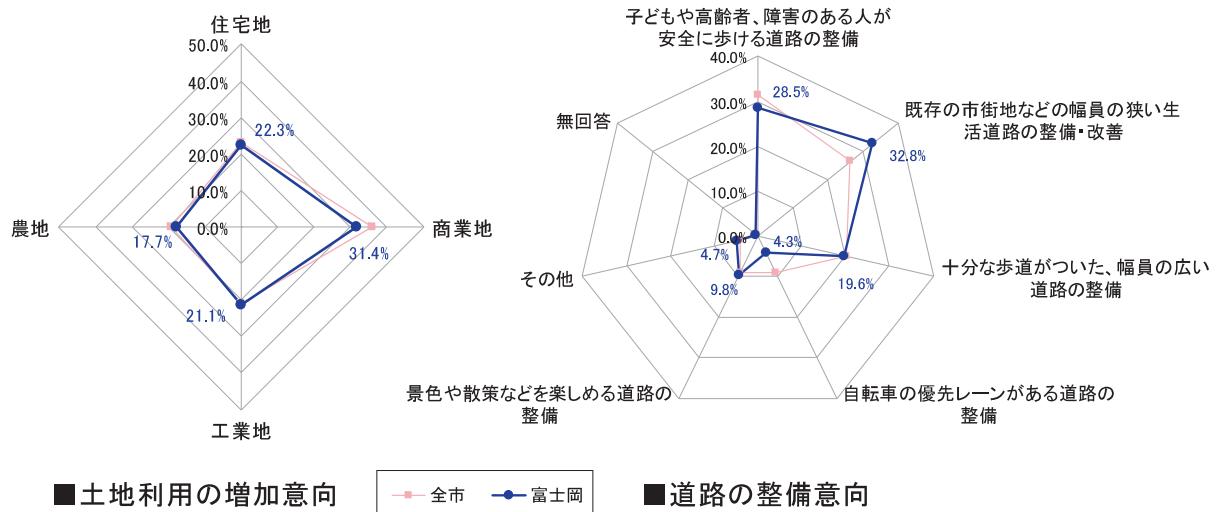


■土地利用現況図（富士岡地域）

《まちづくりに関する市民ニーズ》

○全市と富士岡地域との比較（市民アンケート調査結果）

- ・工業地の増加に関する意向が、全市よりも高くなっています。
- ・幅員の狭い生活道路の整備・改善に関する意向が、全市よりも高くなっています。



○比較的ニーズが高い項目（30%を超える施設整備のニーズ、市民アンケート調査結果）

- ・既存の市街地などの幅員の狭い生活道路の整備・改善（32.8%）
- ・自然を満喫できる公園の整備（31.3%）
- ・生き物や植物が多い自然豊かできれいな川の整備（33.0%）
- ・公共交通（バス）の必要性は、今は重要ではないが、将来を考えると必要（74.3%）

○地域別説明会における主な意見

- ・公共下水道の整備よりも合併処理浄化槽の普及の方が整備事業費が少なくて済むのではないか。
- ・深良方面に抜ける広域農道の整備構想について、その後の方向性を明らかにしてほしい。
- ・ロマンチック街道沿いでこれまで地域の活性化のために行ってきた、菜の花、ブルーベリー、ホタル、稚魚放流などが一定の成果を上げている。今後も自然を大切にしながら施策を推進したいので、市でも引き続き応援してほしい。

2) 富士岡地域の課題

《安心定住》に関する地域の主な課題

- 少子・高齢化、人口減少社会への対応
 - ・JR御殿場線以東の市街化区域の良好な基盤整備
 - ・既存集落の居住環境の向上
 - ・公共交通の利用促進
- 都市計画道路等の都市施設の整備
 - ・国道246号、(一)^{※1}沼津小山線、ロマンチック街道を結ぶ東西方向の道路網の形成
 - ・通学路の歩道整備など安全性の確保と生活道路の整備・改善
- 防災と減災への対応
 - ・市街地、集落地、河川の集中豪雨等に対する防災機能の向上

《自然》に関する地域の主な課題

- 人の営みと自然との共生
 - ・田園地、畠地等の自然的な景観形成と農業生産性の向上
 - ・自然豊かな公園緑地の整備
 - ・黄瀬川等の河川や湧水池の保全・活用
- 自然環境と調和した活力あるまち
 - ・地域東側に位置する箱根外輪山の樹林地の保全
 - ・国指定の天然記念物である駒門風穴の保全

《活力》に関する地域の主な課題

- 新たな産業の育成や支援
 - ・駒門工業団地等の産業環境の維持・向上
 - ・ロマンチック街道等における交流型集客施設等の検討
 - ・食肉センター跡地の利用
- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・(仮称)神山深良線の検討
 - ・東富士演習場地域との調和
 - ・団地間連絡道路とロマンチック街道沿いの整備

《交流》に関する地域の主な課題

- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・箱根外輪山の裾野に立地する観光・レクリエーション施設の活用と充実
 - ・ロマンチック街道等の景観形成
 - ・自然環境を活かした散策道等の整備
 - ・多目的グラウンドの整備
 - ・国立駿河療養所の将来構想

※1：一般県道の略。

(2) 富士岡地域のまちづくり方針

富士岡地域のまちづくりのテーマ

水・緑・風を感じるまち、富士岡

～まちづくりの基本的な考え方～

地域東側の斜面緑地及び黄瀬川沿いの貴重な自然環境の保全と活用、地域西側における交通ポテンシャルを活かした駒門工業団地等の産業機能の充実を図っていきます。また、ロマンチック街道沿道への観光・交流施設の適切な立地誘導を進めます。

《安心定住》に資する整備の方針

- ・JR御殿場線以東の市街化区域は、土地区画整理等の市街地整備事業の導入を図り、計画的な住宅地の形成を進めます。
- ・市街化調整区域にあるJR南御殿場駅・県合同庁舎とその周辺地区、JR富士岡駅西側、神山平住宅団地、富士見原住宅団地等については、地域住民の日常生活やコミュニティ活動に必要な機能の維持・充実を図ります。
- ・時之栖やロマンチック街道へのアクセスの確保など、交流ゾーンへの交通アクセスの利便性向上に向けて、国道246号と（一）沼津小山線及びロマンチック街道を結ぶ東西方向の道路網の形成を進めます。
- ・JR富士岡駅などと周辺諸施設を連絡するバス運行の検討を進めます。
- ・神山小学校等への通学路は、歩道の設置などにより安全性の確保を図ります。
- ・地域を縦断する黄瀬川や久保川は、自然環境保全や親水性に配慮しつつ、浸水などの都市災害を防止するため改修を推進します。
- ・本地域の市街地や集落地など建物が密集する地区は、排水対策、地震対策等のほか、道路の拡幅や建築更新時における壁面後退を促進します。
- ・神山地区において、住民の要望や周辺の土地利用を加味した新駅の設置について検討します。

《自然》に資する整備の方針

- ・地域東側に位置する箱根外輪山の樹林地は、豊かな自然環境の保全を図るとともに、市民や来訪者が集える憩いの場の創出について検討を進めます。
- ・自然環境ゾーンに拡がる田園地、畠地等は、休耕している農地の有効利用など農業生産性の向上を図りながら、御殿場らしいのどかな景観の維持を図っていきます。
- ・地域内に点在している湧水池の保全のほか、黄瀬川や久保川の河川敷等の水辺を活かした潤いのある公園等の整備を図っていきます。
- ・国指定の天然記念物である駒門風穴は、将来にわたり保存すべき重要な歴史、観光資源として、保全を図ります。

《活力》に資する整備の方針

- ・駒門工業団地等の工業・流通ゾーンは、環境に配慮した工業団地等の形成及び既存立地企業の維持に努めます。
- ・工業・流通ゾーンに立地する工場敷地周辺部においては、緩衝緑地や修景緑地等の設置により、周辺環境と調和した景観形成と周辺の生活環境に配慮した産業空間を形成していきます。
- ・ロマンチック街道沿いなどにおいて、地場産品の販売、地産地消の飲食の提供、周辺観光資源への誘導案内などの役割を担う施設等の設置を検討します。
- ・地域西側に隣接する東富士演習場地域は、市民生活への影響に留意しながら、民生安定のための諸施策が講じられるよう関係機関との協議を重ねていきます。

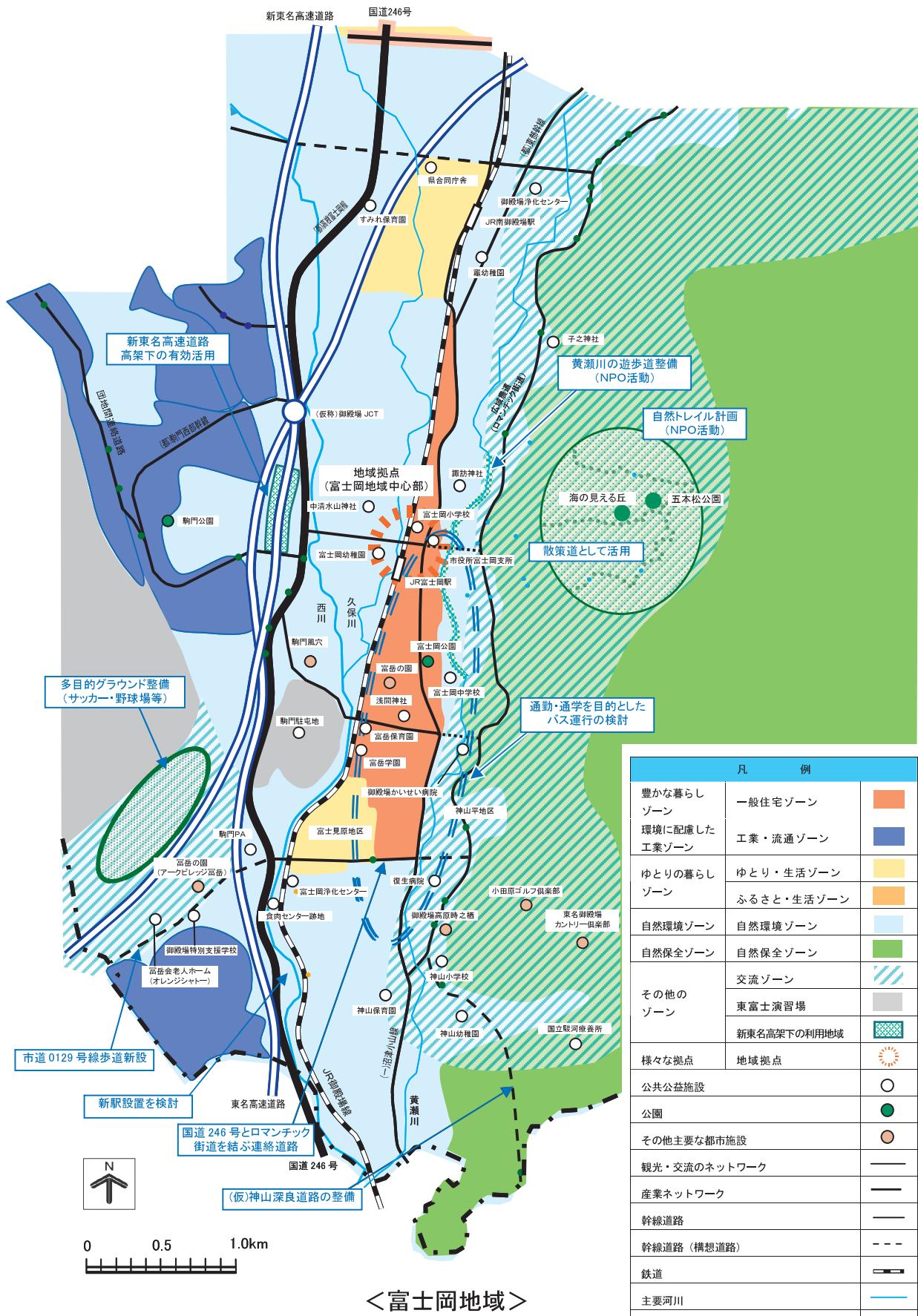
《交流》に資する整備の方針

- ・富士山に対面する箱根外輪山の裾野は、自然環境との調和を図りつつ首都圏から観光客誘致に向けて、観光・レクリエーション施設の立地を適切に誘導し、滞在型の観光客の誘致や、市民の交流施設等の整備を図ります。
- ・南北の連携軸となるロマンチック街道は、周辺諸施設を有機的に結びつけるために、地区計画や建築協定等による沿道景観の整備と展望台の富士山の眺望場所等の整備を進めます。
- ・地域拠点であるＪＲ富士岡駅周辺は、都市機能の強化に向けて、駅前広場の整備や、駅西側における面整備^{※1}、道路整備の可能性について検討を進めます。
- ・隣接市等との広域交流を促進するため、(仮称)神山深良道路等の整備を行います。
- ・箱根外輪山の裾野のハイキングコースは、地域で活動するNPOへの支援を行いつつ、自然に親しむことができる散策道や富士山等を眺望できる休憩施設等の整備促進を図ります。
- ・スポーツ拠点である本地域の南西部に、市民や来訪者がスポーツ・レクリエーションを通じて交流できる多目的グラウンドの整備を進めます。
- ・新東名高速道路の高架下については、公園やコミュニティ広場等の整備による有効利用を推進し、地域住民の交流の場として活用します。
- ・国立駿河療養所の将来構想については、本市にふさわしい土地利用のあり方にについて検討するとともに、関係機関との調整を図ります。
- ・地域の観光資源の充実に向け、市民協働のもと、必要な支援を行います。
- ・食肉センターの跡地については、地域の公共・公益施設のほか、既存施設に準じた土地利用の誘導を図ります。

《重点整備の方針》

- ロマンチック街道周辺整備及び団地間連絡道路・スポーツ拠点の整備
- (仮称)神山深良線の整備構想の実現と生活道路の整備・改善
- 神山地区への新駅設置の検討
- 河川の防災対策(黄瀬川及び支川整備)
- NPO団体への支援
- 新東名高速道路の高架下の整備

※1：まとめた相当規模の区域で、道路・公園・下水道等の施設整備を、宅地開発と一体的に行うこと。土地区画整理事業等が含まれる。



注) 上記の図は、隣接地域の施設も記載されている場合があります

(1) 地域の概況と課題

1) 地域の概況

本地域は、御殿場地域の市街地に連携する地域で、国道246号以東は住居系の市街化区域となっています。

国道246号と（都）御殿場高根線に囲まれた地区は、市街化調整区域として当面市街化を抑制する区域ですが、新東名高速道路のインターチェンジ開設に伴う開発圧力の増大が見込まれます。

また、（都）御殿場高根線の外側に広がる田園地は御殿場らしいのどかな景観が形成されています。

一方、原里支所を中心に、公益施設や生活利便施設、住宅地等が立地しています。

地域の中央から南部にかけては、富士岡地域から連なる工業集積地が形成されています。

人口状況		注) 人口は都市計画基礎調査、高齢化率は平成22年4月の住民基本台帳の数値			
地域人口(人)		人口増加率(平成12~17年)	高齢化率(65歳以上)		
平成12年	平成17年	本地域	市平均	本地域	市平均
約17,700	約18,000	102%	103%	16.5%	18.2%

・平成12年から17年の5年間で、本地域の人口は約2%増加しています。

・本地区の高齢化率は16.5%と本市の全体に比べ低くなっています。

主要施設

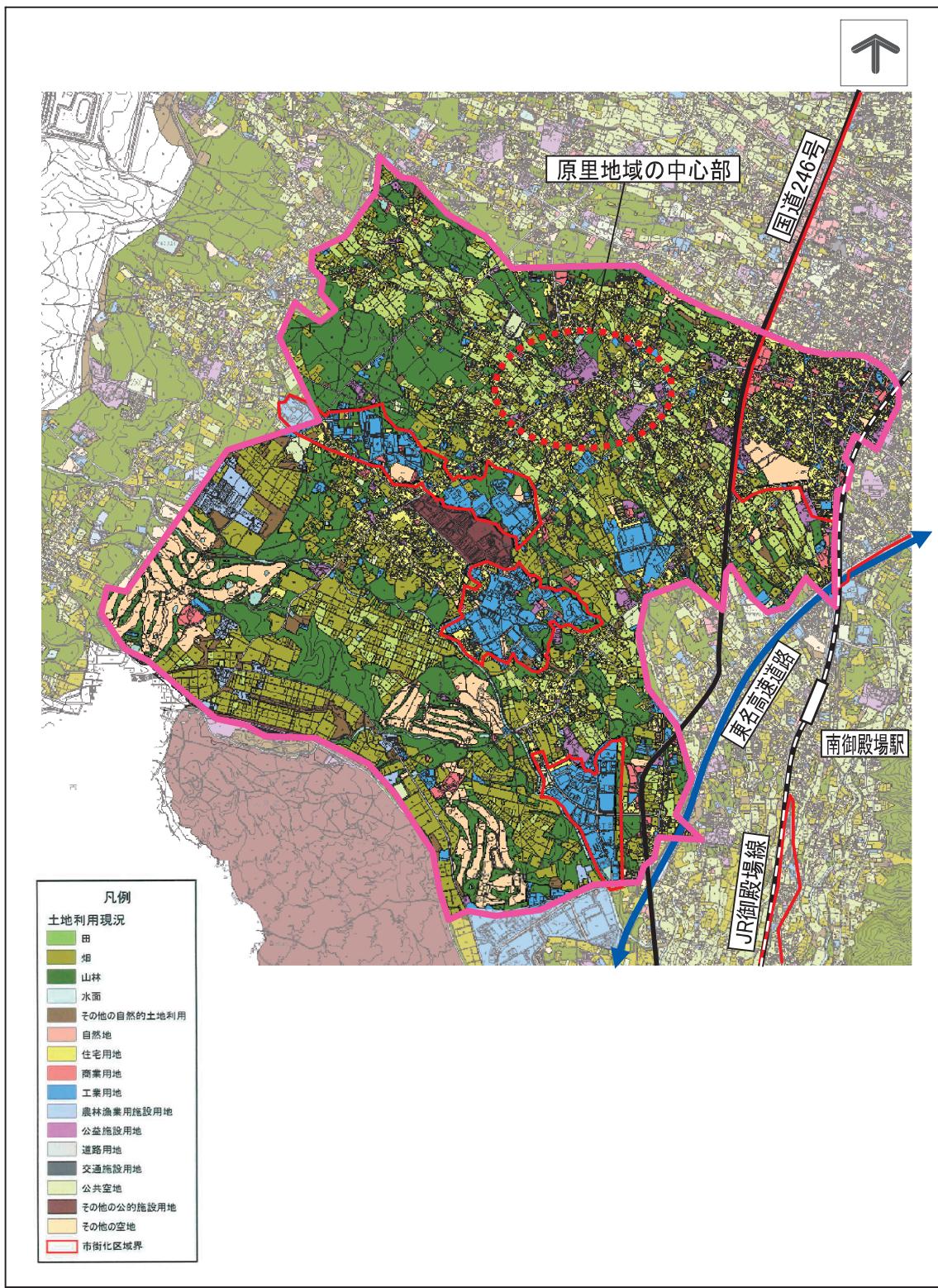
- | | | |
|---------------|---------------|-----------|
| ・(一)五本地御殿場線 | ・(都)御殿場高根線 | ・(都)神場板妻線 |
| ・(一)滝ヶ原富士岡線 | ・(都)永原高根線 | ・市道0108号線 |
| ・神場南公園 1.00ha | ・湯沢平公園 1.89ha | |

供用済合計 2.89ha (1人当たり公園面積 1.61m² 市平均 2.72m²/人)

地域の主な景観



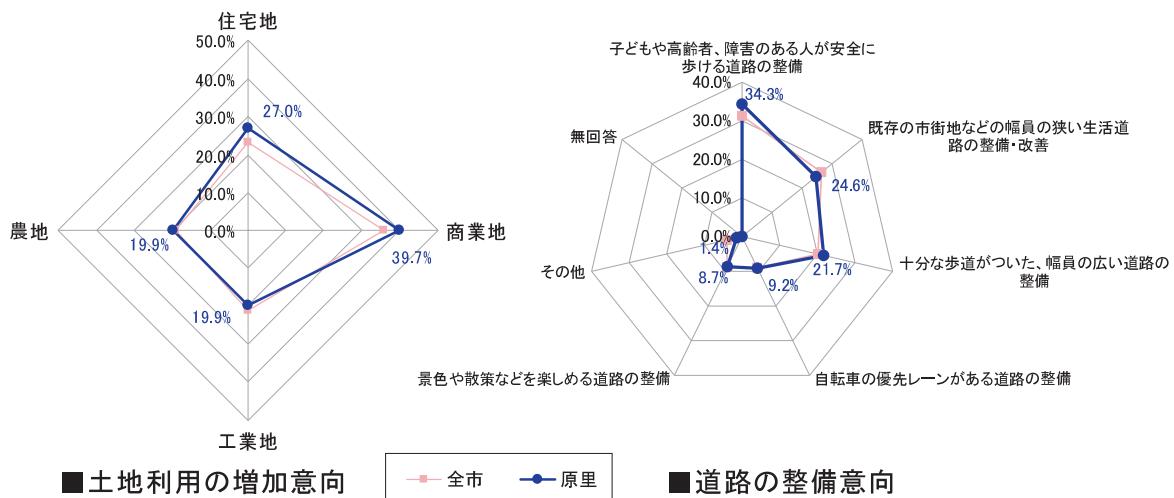
- 地域北東部の市街化区域は、御殿場地域の市街地と連たんしています。
- 地域中央から南部にかけては、工業団地が立地しています。
- 地域北部の原里地域の中心部には、既存集落や公共公益施設等が立地しています。
- 地域南西部には、レクリエーション施設（ゴルフ場）が立地しています。



《まちづくりに関する市民ニーズ》

○全市と原里地域との比較（市民アンケート調査の主な結果）

- ・商業地の増加に関する意向が、全市よりも高くなっています。
- ・子どもや高齢者、障害のある人が安全に歩ける道路の整備に関する意向が、全市よりも高くなっています。



○比較的ニーズが高い項目 (30%を超える施設整備のニーズ、市民アンケート調査結果)

- ・子どもや高齢者、障がいのある人が安全に歩ける道路の整備 (34.3%)
- ・自然を満喫できる公園の整備 (33.7%)
- ・生き物や植物が多い自然豊かできれいな川の整備 (37.0%)
- ・公共交通（バス）の必要性は、今は重要ではないが、将来を考えると必要 (66.7%)

○地域別説明会における主な意見

- ・人を増やす施策として、就労の場を増やしていく施策を重点的に行ってほしい。
- ・計画決定されたまま事業が途中で止まってしまっている道路など、優先度の高い道路を集中して整備し、実施予定のない都市計画道路は廃止するなどの仕分けが必要ではないか。
- ・最終処分場の埋め立て容量から考えると、板妻・神場地先に予定しているごみ処理総合施設は、総合施設としての観点では機能的に不足するのではないか。
- ・河川の三面張り工法は自然とのふれあいができないので、新たな工法を検討してほしい。
- ・駅経由でなく、地域内だけでもない、市内の主な施設を循環するバスの運行を希望する。

2) 原里地域の主な課題

《安心定住》に関する地域の主な課題

- 少子・高齢化、人口減少社会への対応
 - ・良好な住環境の形成
 - ・既存集落の居住環境の向上
- 都市計画道路等の都市施設の整備
 - ・生活道路の整備・改善
 - ・歩道の整備
 - ・公園の整備
 - ・公共交通の利用促進
 - ・ごみ処理総合施設の整備
- 防災と減災への両面からの対応
 - ・市街地や集落地の防災性の向上

《自然》に関する地域の主な課題

- 人の営みと自然との共生
 - ・田園地の自然環境と生活環境の共生
 - ・自然豊かな公園緑地の整備
- 自然環境と調和した活力あるまち
 - ・河川の親水性の確保

《活力》に関する地域の主な課題

- 新たな産業の育成や支援
 - ・夏刈工業団地の整備にあわせたアクセス道路の整備
 - ・既存工業団地・集積地における未活用地への企業誘致と既存企業への支援
- 都市計画道路等の都市施設の整備
 - ・産業立地を促進する団地間連絡道路の整備
- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・東富士演習場地域との調和

《交流》に関する地域の主な課題

- 市民協働によるまちづくり
 - ・協働による公園等の整備
- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・地域拠点の都市機能の向上
 - ・交流ゾーンの整備

(2) 原里地域のまちづくり方針

原里地域のまちづくりのテーマ

花・風・人いきいき、原里

～まちづくりの基本的な考え方～

森の腰を中心とした商業機能、(都)御殿場高根線内側の地区における都市型の生活機能、工業系用途地域における工業機能、地域西側における豊かな自然環境機能など、地域内に立地するさまざまな機能に沿った都市基盤整備の推進を図っていきます。

《安心定住》に資する整備の方針

- ・国道 246 号以東に位置する現在の市街化区域については、潤いに満ちた計画的な住宅市街地の形成を目指します。
- ・現在の国道 246 号と (都) 御殿場高根線の間の地域は、新東名高速道路の整備に伴う移転家屋等により宅地化も進むことから、地区計画等の導入を検討し、自然環境に配慮した良好な住環境の形成を進めます。
- ・板妻・神場地先において、資源循環型社会に配慮したごみ処理総合施設の整備を推進します。
- ・国道 469 号及び (県) 滝ヶ原富士岡線沿いに位置するふるさと・生活ゾーンは、周辺の農業や自然環境との調和を図りつつ、集落地として居住環境を整えます。
- ・工場周辺の生活道路は、交通の安全性を確保するため、歩道の整備、道路の拡幅や改良、危険な交差点の改善などを進めます。
- ・既存集落内やその周辺などの生活道路は、歩道の設置や道路舗装などにより安全性や利便性の向上を図ります。
- ・本地域の市街地や集落地など建物が密集する地区は、排水対策、地震対策等のほか、道路の拡幅や建築更新時における壁面後退を促進します。
- ・市の主要な施設との連絡や、地域の主要諸施設等を循環するバス運行の検討を進めます。
- ・旧矢崎部品跡地は、(仮称) 友愛パーク朝日として公園の整備を推進します。

《自然》に資する整備の方針

- ・(都) 御殿場高根線の外側に拡がる田園地、畠地等は、休耕している農地の有効利用など農業生産性の向上を図りながら、御殿場らしいのどかな景観の維持を図っていきます。
- ・子ども達の遊び場として、黄瀬川や西川の河川敷等の水辺を活かした潤いのある公園や、親水河川、せせらぎ等の整備を図っていきます。

《活力》に資する整備の方針

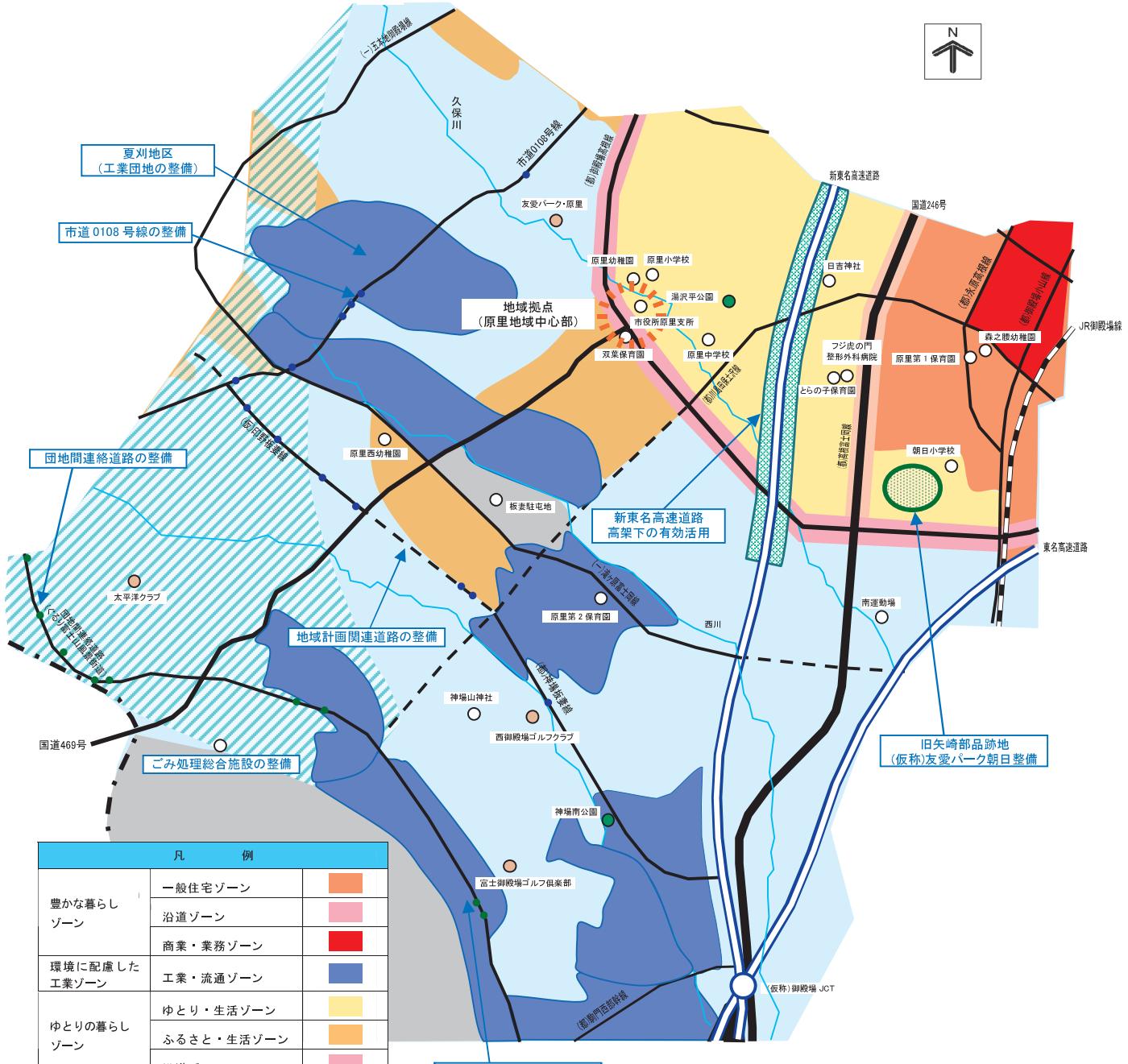
- ・地域西部に拡がる夏刈地区は、市街化区域への編入等を視野に入れながら、地区計画制度等の活用により周辺環境と調和した工業用地の整備を目指し、製造及び研究・技術開発機能を有する企業誘致を進めていきます。
- ・夏刈地区の工業団地整備とあわせ、アクセス道路となる市道 0108 号線及び地域計画関連道路の整備を推進します。
- ・中部道下団地（解放国有地）は、産業構造の転換に対応した新たな産業立地を図る工業・流通ゾーンと位置づけ、環境に配慮しつつ、基盤施設となる団地間連絡道路の整備促進を図っていきます。
- ・工場敷地周辺部においては、緩衝緑地や修景緑地を設置し、良好な景観の形成を図るとともに、大型車両の集落地への流入を防ぐため、段階的な道路網の整備を図っていきます。
- ・富士御殿場工業団地については、市街化区域への編入を検討します。
- ・既存工業団地内の既存立地企業の市外移転の抑制に向けて、各種支援制度の充実等に努めます。
- ・地域南側に隣接する東富士演習場地域は、市民生活への影響に留意しながら、民生安定のための諸施策が講じられるよう、関係機関との協議を重ねていきます。

《交流》に資する整備の方針

- ・J R 御殿場駅から連なる森の腰商店街等の商業業務機能の集積は、都市計画道路、駐車施設整備などの交通施設を計画的に整備していきます。
- ・原里支所を中心とした地域拠点は、生活利便性を高めるため、周辺環境に配慮しつつ、店舗等の生活利便施設の充実を検討していきます。
- ・団地間連絡道路沿いの地区は、高塚団地等の解放国有地が存在する開発ポテンシャルの高い地域であることから、恵まれた自然環境や交通条件を活かし、レクリエーション施設や新産業を支える産業基盤の整備を進めます。
- ・国道 246 号東側と(都)御殿場高根線の交差部の北東部の企業跡地は、地域住民との協働のもと、公園等の整備を推進します。
- ・新東名高速道路の高架下については、公園やコミュニティ広場等の整備による有効利用を推進し、地域住民の交流の場として活用します。

《重点整備の方針》

- 夏刈地区の工業団地化と企業誘致
- 地域計画関連道路 ((仮称) 印野板妻線) の整備、団地間連絡道路の整備
- 公共施設周辺の歩道の整備
- 公共交通の整備・拡充
- (仮称) 友愛パーク朝日の公園整備
- 新東名高速道路の高架下の整備



凡　例		
豊かな暮らしゾーン	一般住宅ゾーン	■
	沿道ゾーン	■
	商業・業務ゾーン	■
環境に配慮した工業ゾーン	工業・流通ゾーン	■
ゆとりの暮らしゾーン	ゆとり・生活ゾーン	■
	ふるさと・生活ゾーン	■
	沿道ゾーン	■
自然環境ゾーン	自然環境ゾーン	■
その他のゾーン	交流ゾーン	■
	新東名高架下の利用地域	■
様々な拠点	都市拠点	○
	地域拠点	○
公共公益施設		○
公園		●
その他主要な都市施設		●
観光・交流のネットワーク		—
産業ネットワーク		—
幹線道路		—
幹線道路（構想道路）		---
鉄道		—
主要河川		—
市域界		---

0 0.5 1.0km

<原里地域>

注)上記の図は、隣接地域の施設も記載されている場合があります。

(1) 地域の概況と課題

1) 地域の概況

国道 246 号以東に位置する市街化区域は、本市の中心地区である御殿場地域に隣接し、商業系及び住居系の土地利用となっています。

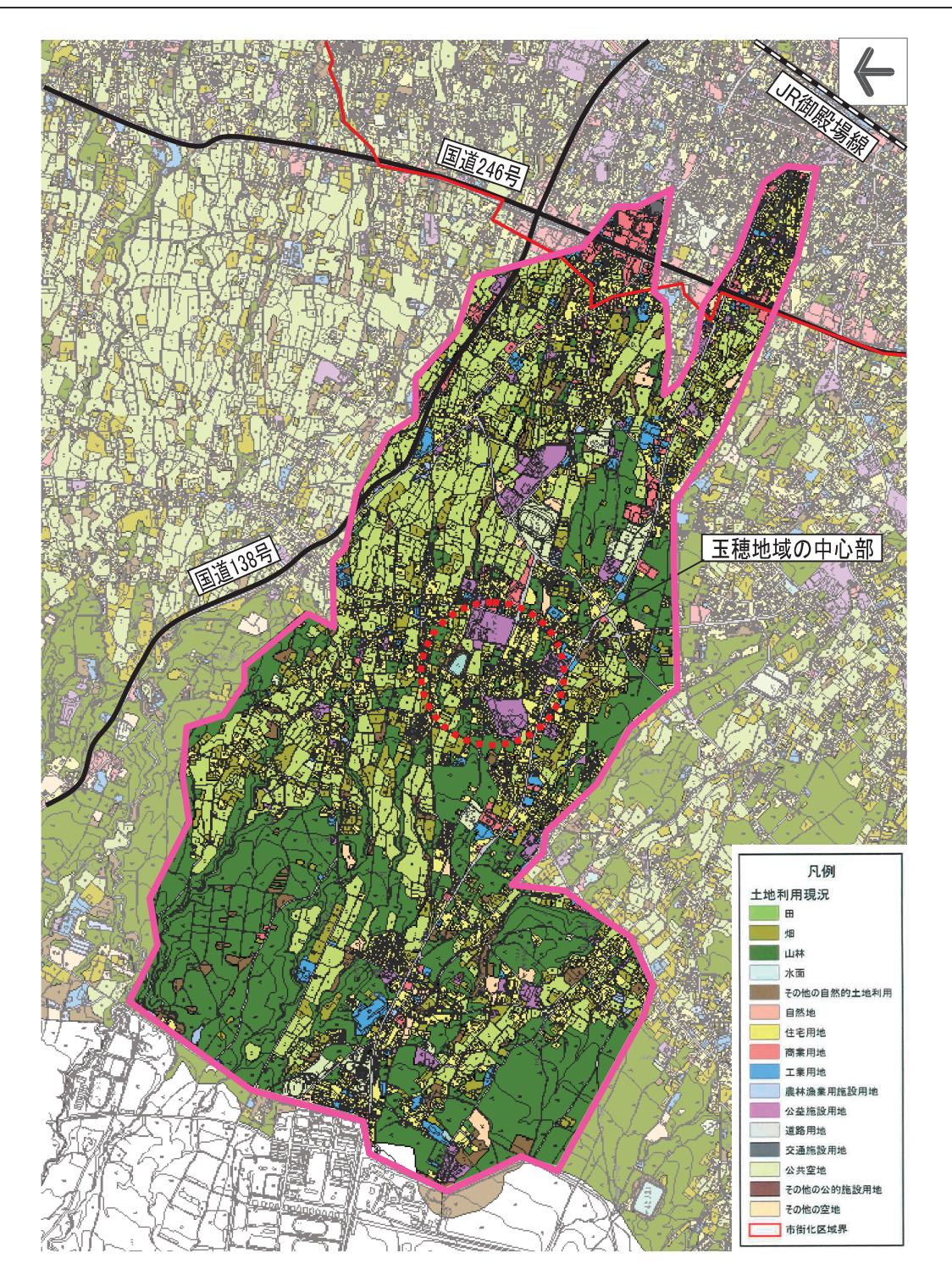
また、国道 246 号と（都）御殿場高根線に囲まれた地区は、市街化調整区域として当面市街化を抑制する区域ですが、新東名高速道路のインターチェンジ開設に伴う開発圧力の増大が見込まれます。

地域西部の樹林地・農地は、豊かな自然環境、生産環境が保全されており、玉穂支所周辺は本地域の中心部となる集落を形成しています。

また、玉穂支所東部においては、陸上競技場、体育館等のスポーツやレクリエーションが楽しめる施設が集積しています。

人口状況		注) 人口は都市計画基礎調査、高齢化率は平成 22 年 4 月の住民基本台帳の数値			
地域人口 (人)		人口増加率(平成 12~17 年)	高齢化率(65 歳以上)		
平成 12 年	平成 17 年	本地域	市平均	本地域	市平均
約 10,300	約 9,700	94%	103%	19.6%	18.2%
<ul style="list-style-type: none"> 平成 12 年から 17 年の 5 年間で、本地域の人口は約 6% 減少しています。 本地区の高齢化率は 19.6% と本市の全体に比べ高くなっています。 					
主要施設					
<ul style="list-style-type: none"> (一) 五本地御殿場線 (都) 茅ヶ崎棚頭線 (都) 御殿場高根線 市道 0108 号線 					
<ul style="list-style-type: none"> 桜公園 4.00ha 					
供用済合計 4.00ha (1 人当たり公園面積 4.12 m ² 市平均 2.72 m ² /人)					
地域の主な景観					
 玉穂支所			 御殿場市民交流センター「ふじざくら」		
 桜公園			 地区街路(玉穂四季の道)		

- 本地域東部は、御殿場地域の市街化区域に連たんしています。
- 地域中央に玉穂支所やその他の公共施設が集積しています。
- 地域北部は田、畑、地区北西部は山林が多く、自然的土地利用が中心となっています。

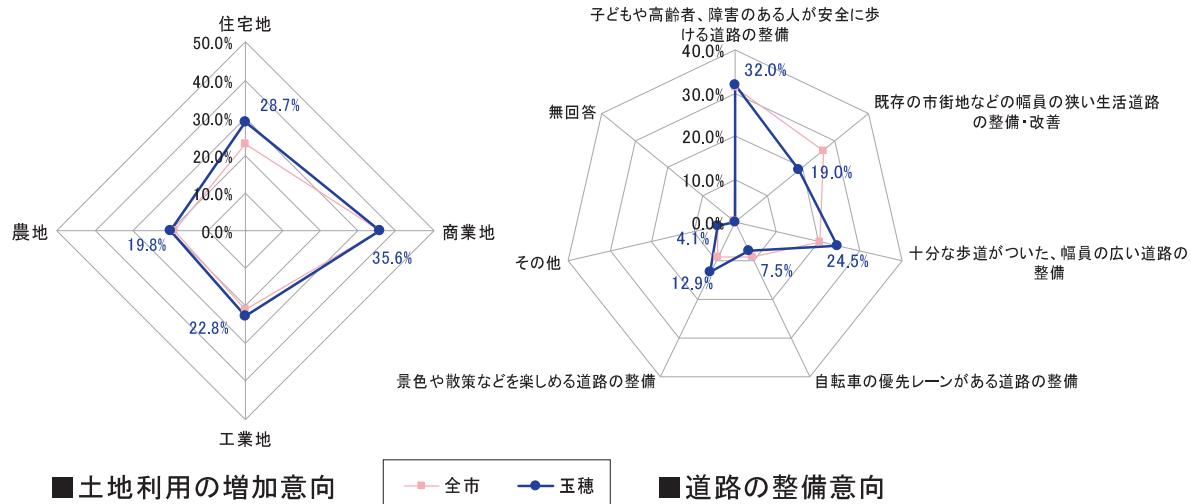


■土地利用現況図（玉穂地域）

《まちづくりに関する市民ニーズ》

○全市と玉穂地域との比較（市民アンケート調査の主な結果）

- ・住宅地の増加に関する意向が、全市よりも高くなっています。
- ・十分な歩道がついた、幅員の広い道路の整備に関する意向が、全市よりも高くなっています。



○比較的ニーズが高い項目（30%を超える施設整備のニーズ、市民アンケート調査結果）

- ・子どもや高齢者、障がいのある人が安全に歩ける道路の整備（32.0%）
- ・自然を満喫できる公園の整備（34.8%）
- ・生き物や植物が多い自然豊かできれいな川の整備（32.1%）
- ・公共交通（バス）の必要性は、今は重要ではないが、将来を考えると必要（68.3%）

○地域別説明会における主な意見

- ・玉穂地域に住みたいというニーズは高いが、市街化調整区域のため住宅ができない。住宅地を創出できる制度を適用してほしい。
- ・公共交通のバスに関する記述については、早く実現できるように希望する。
- ・団地間道路に立派な歩道がついたが、同じ規格のもので連続性を持たせてほしい。また、自転車が走れる道路も整備して、玉穂地域をアピールしたい。
- ・短大の跡地利用については、若者が集まる教育施設を引き続きお願いしたい。

2) 玉穂地域の主な課題

《安心定住》に関する地域の主な課題

- 少子・高齢化、人口減少社会への対応
 - ・周辺環境と調和した住宅地の供給
 - ・店舗等生活利便施設の誘導
- 都市計画道路等の都市施設の整備
 - ・通学路の歩道整備など安全性の確保
 - ・生活道路の整備・改善
 - ・身近な公園の整備
 - ・公共交通の利用促進
- 防災と減災への両面からの対応
 - ・市街地や集落地の防災性の向上

《自然》に関する地域の主な課題

- 人の営みと自然との共生
 - ・河川や遊水地の保全・活用
- 自然環境と調和した活力あるまち
 - ・地区西部の樹林地の保全・活用

《活力》に関する地域の主な課題

- 新たな産業の育成や支援
 - ・(仮称) 御殿場インターチェンジランプ周辺の土地利用の検討
 - ・団地間連絡道路沿いの交流機能の充実
- 生産性の高い農業の育成
 - ・地域北西部の田園地の保全
- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・団地間連絡道路の整備
 - ・(仮称) 茅ヶ崎インターチェンジのランプ化と計画的な沿道利用
 - ・東富士演習場地域との調和

《交流》に関する地域の主な課題

- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・地域拠点の都市機能の向上
 - ・スポーツ拠点等の維持・充実
 - ・桜公園周辺など交流ゾーンの利便性向上

(2) 玉穂地域のまちづくり方針

玉穂地域のまちづくりのテーマ

富士山の恵みあふれる文化の里、玉穂

～まちづくりの基本的な考え方～

地域西側の樹林地においては、豊かな自然環境を維持、保全しながら、人々が自然と触れ合うことのできる空間の整備を図っていきます。また、地域東側においては、陸上競技場、体育館等の都市施設の集積の活用、新東名高速道路インターチェンジ周辺地域の立地特性を活かした活気ある基盤整備の検討を進めます。

《安心定住》に資する整備の方針

- ・新東名高速道路の整備に伴い、(都)御殿場高根線などの幹線道路をはじめ、生活道路網が整備され土地利用が促進されるとともに、移転家屋等により宅地化も進むことから、環境豊かな生活ゾーンとして形成を図ります。
- ・(都)御殿場高根線の外側に拡がる玉穂支所を中心とした周辺地域は、周辺の農地や自然環境と調和を図りつつ、生活利便性を高めるための生活利便施設の誘導とともに、地区計画等の導入による住宅地の創出を検討します。
- ・玉穂小学校等の通学路は、歩道等の設置などにより安全性の確保を図ります。
- ・市民の憩いの空間、緊急時の避難場所として、身近で高齢者や障害者も利用可能な公園の整備を推進します。
- ・本地域の市街地や集落地など建物が密集する地区は、排水対策、地震対策等のほか、道路の拡幅や建築更新時における壁面後退を促進します。
- ・市の主要な施設との連絡や、玉穂支所やスポーツ拠点などの地域の主要諸施設等を循環するバス運行の検討を進めます。

《自然》に資する整備の方針

- ・地域北西部に拡がる樹林地は、本市を育んできた富士山麓の豊かな自然として保全を図ります。また、自然を体験することのできる憩いの場の創出についても検討を進めます。
- ・地域中央部を東西に流れる小山川及び周辺に点在する湧水池を活かし、自然と触れ合える場など親水空間の整備を促進します。

《活力》に資する整備の方針

- ・地域北西部に拡がる農地は食料生産の機能とともに、環境保全・防災機能のほか、季節の移り変わりを感じさせる景観機能も有するため、ほ場整備が完了した優良な農地を中心にその保全に努めます。
- ・東富士演習場地域は、地域と共に存共栄してきた歴史に鑑み、市民生活への影響に留意しながら、民生安定のための諸施策が講じられるよう、関係機関との協議を重ねていきます。
- ・団地間連絡道路は、(仮称)御殿場インターチェンジから本地域へのアクセス性

向上など、市外及び他地域からの集客機能の向上を担う道路として整備を推進します。

- ・団地間連絡道路沿いの地区については、豊かな自然環境と調和した交流ゾーンにふさわしい土地利用の促進を図ります。
- ・新東名高速道路の（仮称）御殿場インターチェンジ開設に伴うランプ周辺は、農地等の周辺環境に配慮しつつ、地域住民の合意形成を踏まえ、業務系土地利用のための基盤整備の可能性について検討をします。

《交流》に資する整備の方針

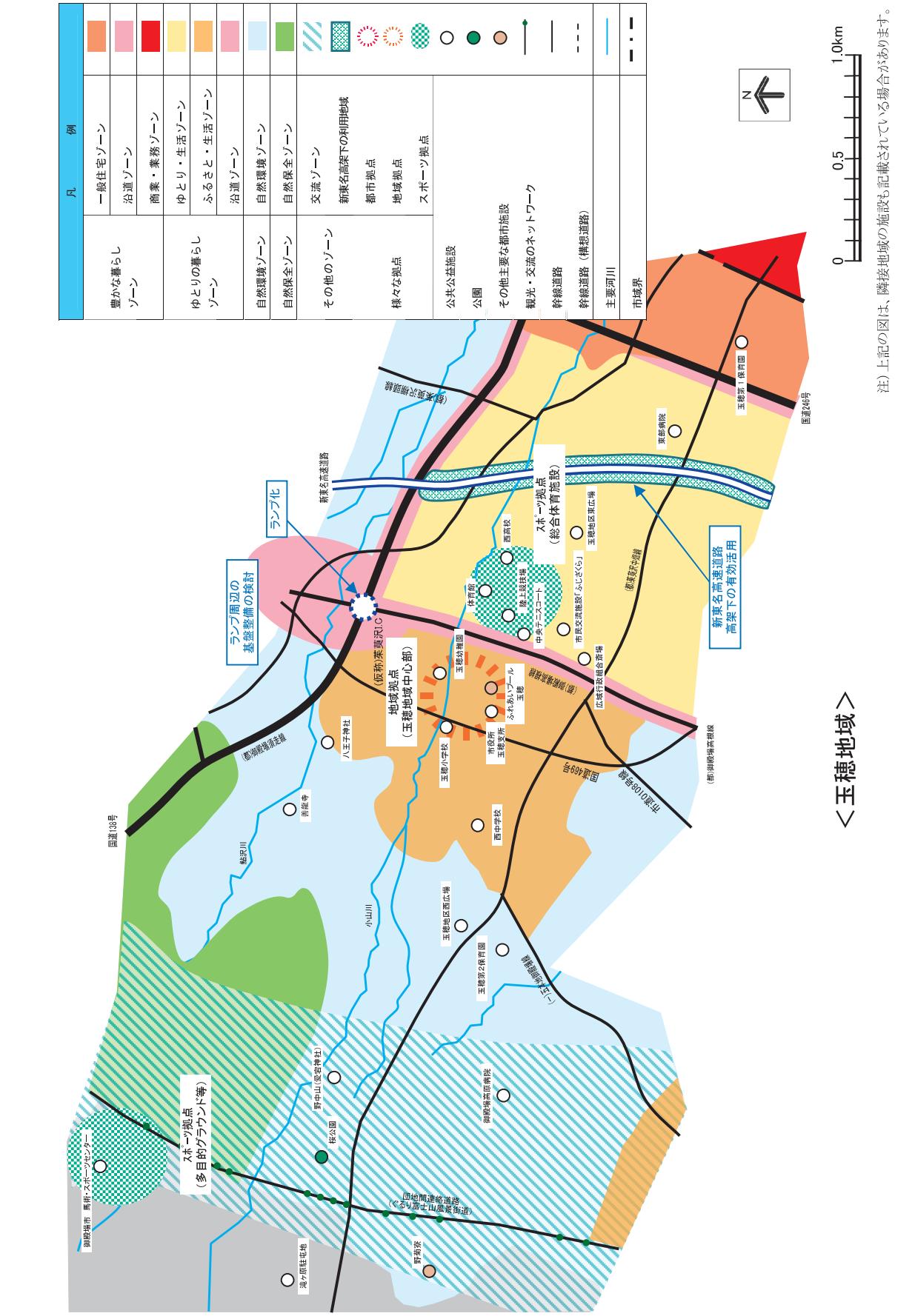
- ・本地域中心部の都市施設（玉穂支所、学校教育施設等）が集積した地区は、地域拠点として位置づけ、生活利便施設の向上を図っていきます。
- ・陸上競技場や体育館等の周辺地区は、市民等がスポーツやレクリエーションを楽しめる拠点として、施設の充実やアクセス道路の整備を図ります。
- ・地域北部のスポーツ拠点は、市民等がスポーツ・レクリエーションを通じて交流できる多目的グラウンドの整備を進めます。
- ・「ふじざくら」は、福祉機能を兼ね備えた世代間交流施設として施設の維持・充実を図るほか、交通アクセスの利便性を高めるため公共交通の利便性向上を交通事業者と連携し進めていきます。
- ・桜公園周辺地域や団地間連絡道路（ぐるり富士山風景街道）沿道は、富士山の風景を活かした遊歩道の整備や案内板の設置により、来訪者の利便性の向上を図ります。
- ・新東名高速道路の高架下については、公園やコミュニティ広場等の整備による有効利用を推進し、地域住民の交流の場として活用します

《重点整備の方針》

- 公共施設周辺の歩道の整備
- 新東名インターチェンジランプ周辺の基盤整備
- 団地間連絡道路及び（都）御殿場高根線の整備
- 公共交通の整備・拡充
- 新東名高速道路の高架下の整備

例	
一般住宅ゾーン	
沿道ゾーン	
商業・業務ゾーン	
ゆとり・生活ゾーン	
ふるさと・生活ゾーン	
沿道ゾーン	
自然環境ゾーン	
自然保全ゾーン	
交流ゾーン	
新東名高架下の利用地域	
都市拠点	
地域拠点	
様々な拠点	
スポーツ拠点	
公共公益施設	
公園	
その他主要な都市施設	
観光・交流のネットワーク	
幹線道路	
幹線道路（機関道路）	
主要河川	
市域界	

注) 上記の図は、隣接地域の施設も記載されている場合があります。



(1) 地域の概況と課題

1) 地域の概況

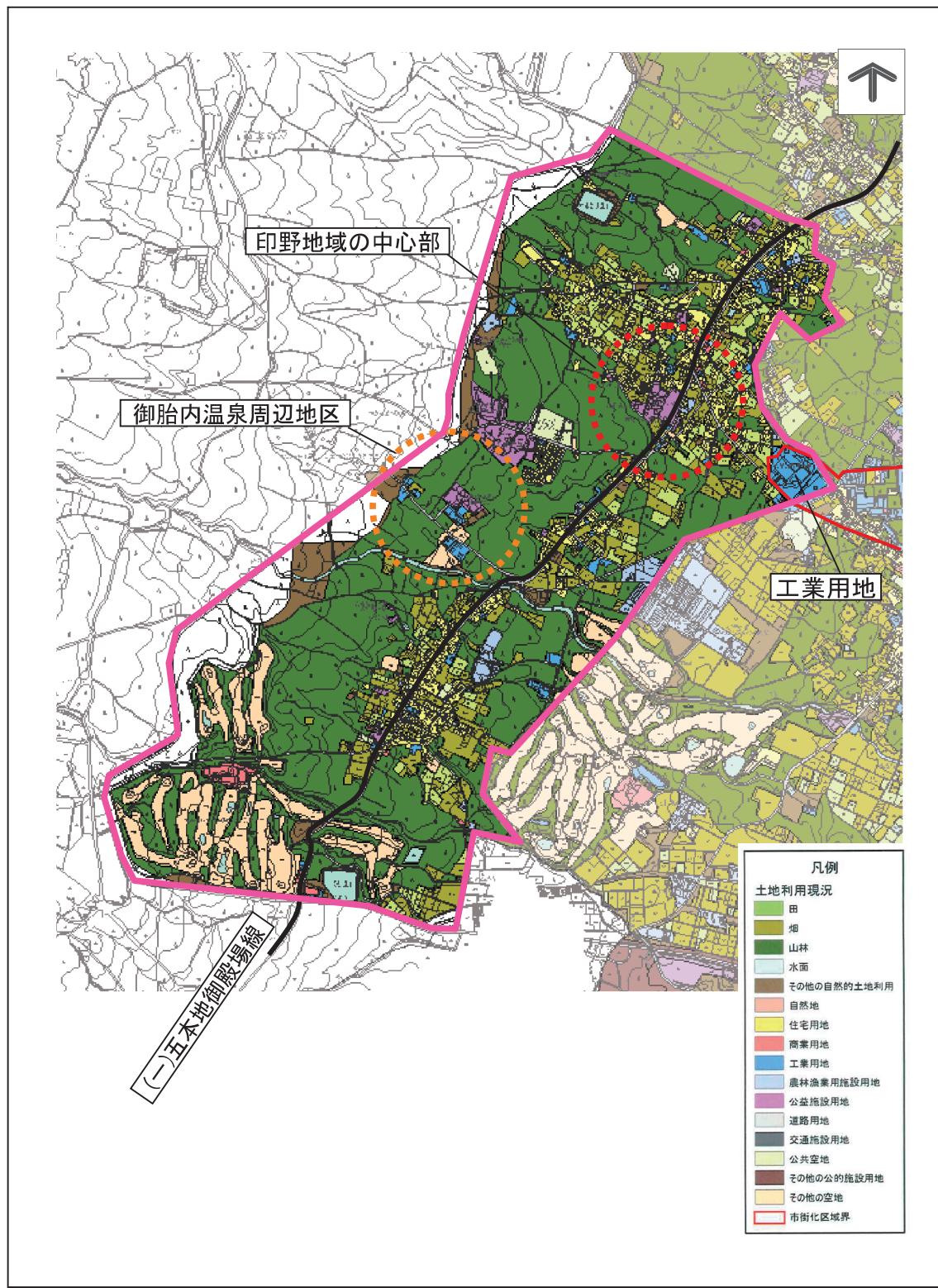
本地域は、(一) 五本地御殿場線沿道に集落地が位置するほか、その周辺を取り囲むように農地が拡がり、農業生産と調和の取れた農住空間を形成しています。更にその外側には、樹林地が拡がっており緑豊かな自然環境を有しています。

また、御胎内清宏園や御胎内温泉などの観光資源を有しております、地域外の人々との交流を育む空間の創出を目指しています。

(一) 五本地御殿場線が主要な道路として地域を縦断していますが、本地域の豊富な観光資源と他地域とを結ぶ道路施設や移動手段などの交通環境が不十分な状況にあります。

人口状況		注) 人口は都市計画基礎調査、高齢化率は平成 22 年 4 月の住民基本台帳の数値			
地域人口 (人)		人口増加率(平成 12~17 年)	高齢化率(65 歳以上)		
平成 12 年	平成 17 年	本地域	市平均	本地域	市平均
約 2,200	約 2,200	100%	103%	22.0%	18.2%
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 12 年から 17 年の 5 年間で、本地域の人口は増減していません。 ・本地区の高齢化率は 22% と本市の全体に比べ高くなっています。 					
主要施設					
<ul style="list-style-type: none"> ・(一) 五本地御殿場線 ・(一) 市道 0108 号線 ・(一) 滝ヶ原富士岡線 ・都市公園はなし 					
供用済合計 -ha (1 人当たり公園面積 -m ²) 市平均 2.72 m ² /人)					
地域の主な景観					
 御胎内温泉			 たぐみの郷		
 富士山御胎内清宏園			 樹空の森(整備イメージ)		

- 地域の北部に印野支所をはじめ地域の中心部の集落地が拡がっています。
- 地域内は富士山麓の山林を中心とする自然的土地利用が多くなっています。
- 地域西部に御胎内温泉などの観光施設が集積しています。
- 地域の南部にはレクリエーション施設（ゴルフ場）が立地しています。

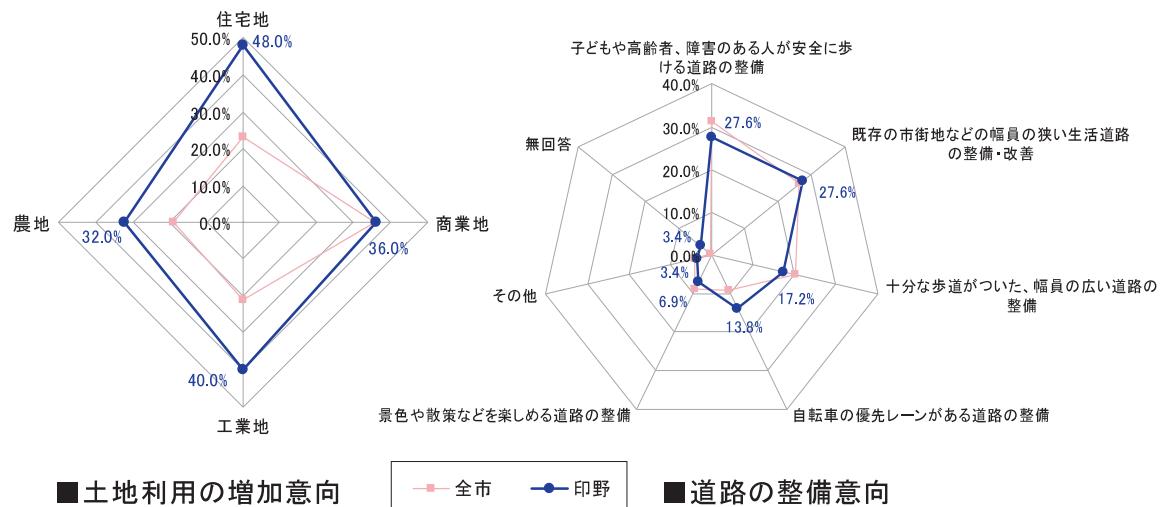


■土地利用現況図（印野地域）

《まちづくりに関する市民ニーズ》

○全市と印野地域との比較（市民アンケート調査の主な結果）

- ・住宅地の増加に関する意向が、全市よりも高くなっています。
- ・自転車の優先レーンがある整備に関する意向が、全市よりも高くなっています。



○比較的ニーズが高い項目 (30%を超える施設整備のニーズ、市民アンケート調査結果)

- ・自然を満喫できる公園の整備 (31.0%)
- ・生き物や植物が多い自然豊かできれいな川の整備 (43.5%)
- ・誰もが水辺に親しめる親水空間の整備 (30.5%)
- ・地域の文化・歴史を活かした景観の整備 (42.9%)
- ・公共交通（バス）の必要性は、今は重要ではないが、将来を考えると必要 (76.0%)

○地域別説明会における主な意見

- ・バリアフリー構想を早めに進めてほしい。
- ・高齢者が一日いて楽しめるような施設を気軽に巡回できる方法を検討してほしい。
- ・線引きの見直しをして住宅が建てられるようにし、人口が増えるようにしてほしい。
- ・高齢者が楽に医療施設に通えるよう交通手段を確保してほしい。診療所があれば好ましい。

2) 印野地域の主な課題

《安心定住》に関する地域の主な課題

- 少子・高齢化、人口減少社会への対応
 - ・集落地の生活利便性の向上
- 都市計画道路等の整備
 - ・団地間連絡道路の整備推進
 - ・生活道路の整備
 - ・公共交通の利用促進
- 防災と減災への両面からの対応
 - ・集落地の防災性の向上

《自然》に関する地域の主な課題

- 人の営みと自然との共生
 - ・集落地周辺の農地の保全・活用
- 自然環境と調和した活力あるまち
 - ・富士山麓の自然景観を活かした沿道景観の推進

《活力》に関する地域の主な課題

- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・団地間連絡道路沿いの生産機能の充実
- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・東富士演習場地域との調和

《交流》に関する地域の主な課題

- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・地域拠点の都市機能の向上
 - ・印野地域内循環バスの検討
 - ・印野地域スポーツ公園の改修

(2) 印野地域のまちづくり方針

印野地域のまちづくりのテーマ

自然・ふれあい・ゆとりとうるおいのまち、印野

～まちづくりの基本的な考え方～

既存集落地の生活環境の保全及び改善を図るとともに、生活利便機能が集積した地域は新たな住宅立地に向けた検討を図ります。また、地域外の人々との交流を育んでいける地域の実現に向け、御胎内清宏園や御胎内温泉などの観光施設の整備を推進するとともに、観光施設への交通アクセスの利便性向上に努めます。

《安心定住》に資する整備の方針

- ・(仮称)印野板妻線周辺や印野区・小木原区の一部においては、新たな住宅立地に向けた検討や地区計画等の導入により、周辺の自然環境との調和を図りつつ、ゆとりある住宅地の整備を促進します。
- ・(一)五本地御殿場線沿道を中心とする集落地は、周辺に拡がる農地、樹林地等との調和を図りつつ、生活利便性の向上に必要な施設整備を推進します。
- ・生活道路については、歩道整備や舗装改良など、子どもや高齢者、障がい者が安心して移動できる交通施設の整備を推進します。
- ・本地域の市街地や集落地など建物が密集する地区は、排水対策、地震対策等のほか、道路の拡幅や建築更新時における壁面後退を促進します。
- ・地域内を循環するコミュニティバス^{※1}等の運行を検討します。

《自然》に資する整備の方針

- ・集落地周辺に拡がる田園地等は、御殿場らしいのどかな景観が残された地区として、農業生産機能の維持を図るとともに、農業を通じたふれあいを深める場の形成に努めます。
- ・団地間連絡道路の整備により富士山の風景を活かしたまちづくりを推進します。

《活力》に資する整備の方針

- ・団地間連絡道路及び地域計画関連道路は、(仮称)御殿場インターチェンジから本地域へのアクセス性向上など、市外及び他地域からの集客機能の向上を担う道路として整備を推進します。
- ・東富士演習場地域は、地域と共に共存してきた歴史に鑑み、市民生活への影響に留意しながら、民生安定のための諸施策が講じられるよう、関係機関との協議を重ねていきます。

《交流》に資する整備の方針

- ・団地間連絡道路沿いの地区については、新東名高速道路の供用開始を視野に入れたアクセス道路の整備を進めます。

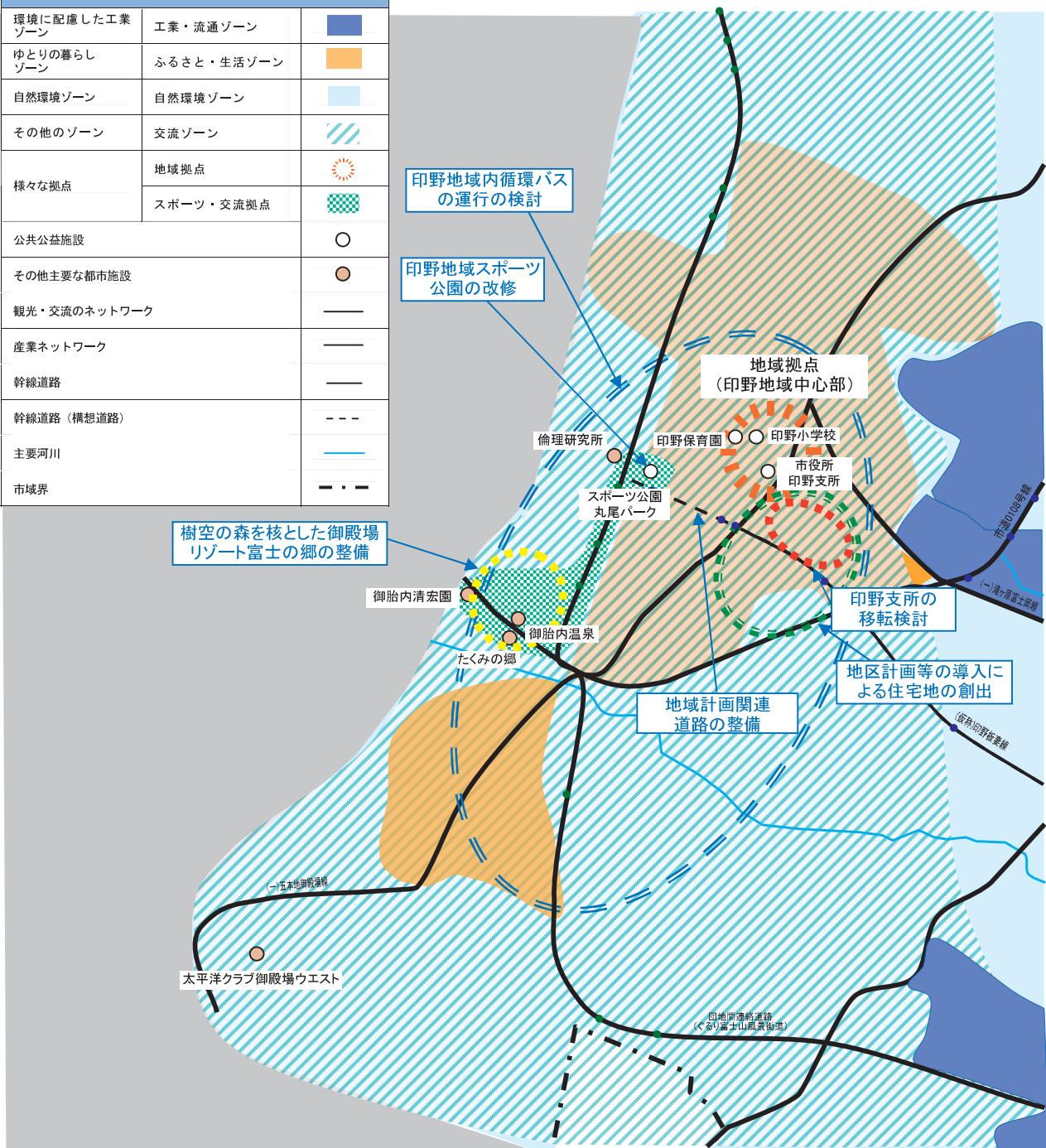
※1：地域での必要性や目的にあわせてルートや運行形態等を工夫し、より生活に密着した移動手段を提供するバスのこと。

- ・印野支所、印野小学校等の生活利便施設が集積する地域は、支所移転の検討を行うとともに、地域拠点として位置づけ、都市機能の向上を図っていきます。
- ・市民や来訪者が富士山麓の自然豊かな環境で余暇を過ごせるよう、御胎内温泉等の観光施設が集積する地域において、樹空の森を核とした御殿場リゾート富士の郷の整備を推進します。
- ・印野支所等の地域拠点や御胎内温泉等の観光施設などを連絡する循環バスの導入を検討します。
- ・多様な市民ニーズに対応するため、スポーツ公園丸尾パークの改修を図ります。

《重点整備の方針》

- 団地間連絡道路及び地域計画関連道路 ((仮称) 印野板妻線) の整備
- 地区計画等の導入による住宅地の創出と定住者対策
- 支所等の拠点施設及び周辺整備
- 公共交通の整備・拡充 (地域内循環バス)

凡　例		
環境に配慮した工業ゾーン	工業・流通ゾーン	■
ゆとりの暮らしゾーン	ふるさと・生活ゾーン	■
自然環境ゾーン	自然環境ゾーン	■
その他のゾーン	交流ゾーン	■
様々な拠点	地域拠点	○
	スポーツ・交流拠点	■
公共公益施設		○
その他主要な都市施設		●
観光・交流のネットワーク		—
産業ネットワーク		—
幹線道路		—
幹線道路（構想道路）		- - -
主要河川		—
市域界		- - -



0 0.5 1.0km

<印野地域>

注) 上記の図は、隣接地域の施設も記載されている場合があります。

(1) 地域の概況と課題

1) 地域の概況

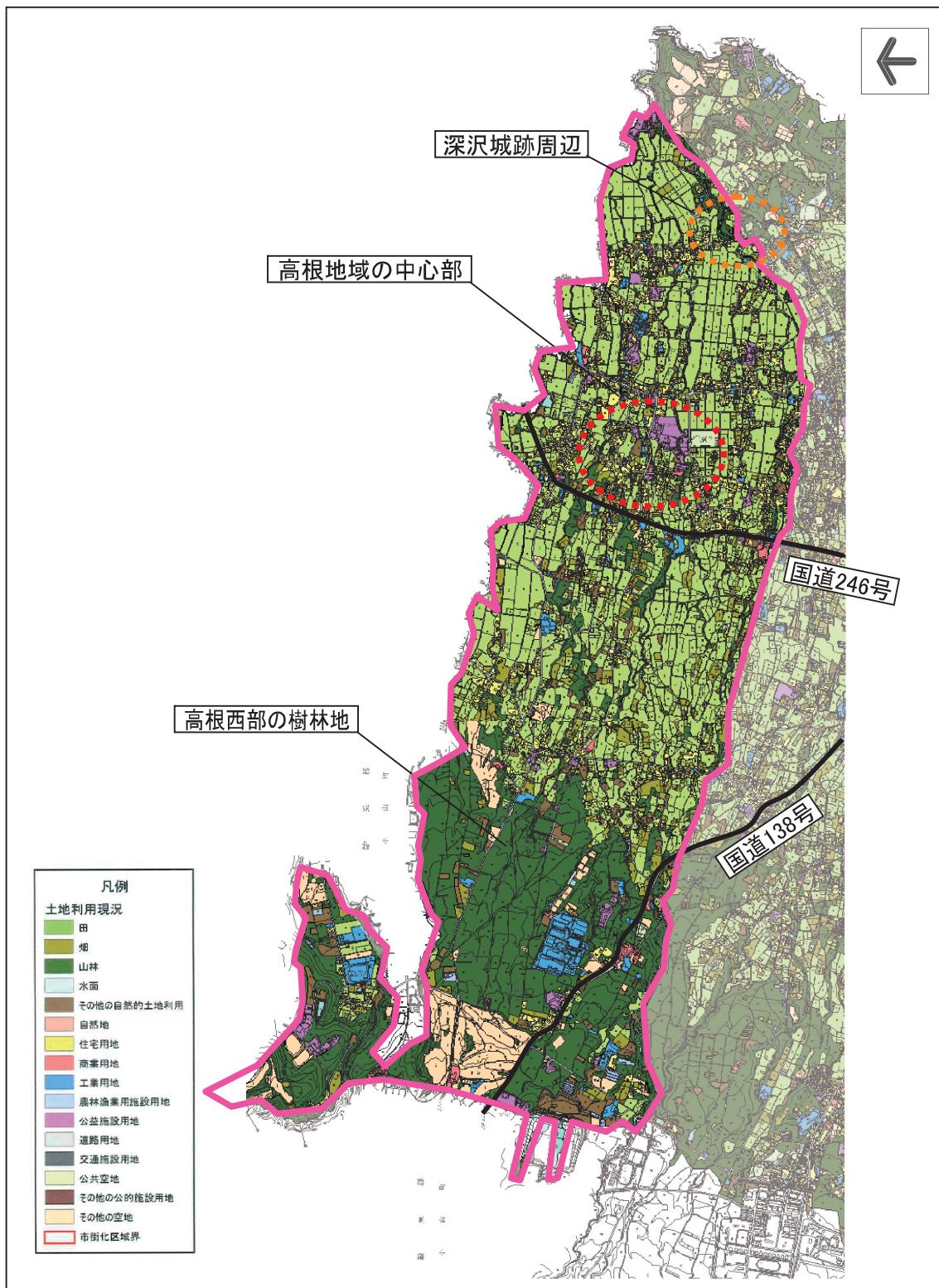
国道 246 号東側の高根支所周辺は、集落地や学校施設、広場等の施設が立地しており、生活利便施設が集積しています。

地域の中心部周辺には、湧水地や河川、優良農地等の自然環境が広がっています。また、地域に点在する湧水地や中小河川などにおいては、生物の生息・生育に適した水辺環境が形成されています。

地域西部に広がる富士山麓の森林は、豊かな自然林が多く、森林に囲まれる形で工業施設が点在しています。

人口状況		注) 人口は都市計画基礎調査、高齢化率は平成 22 年 4 月の住民基本台帳の数値			
地域人口 (人)		人口増加率(平成 12~17 年)	高齢化率(65 歳以上)		
平成 12 年	平成 17 年	本地域	市平均	本地域	市平均
約 4,900	約 4,800	98%	103%	23.2%	18.2%
<ul style="list-style-type: none"> 平成 12 年から 17 年の 5 年間で、本地域の人口は約 2% 減少しています。 本地区の高齢化率は 23.2% と本市の全体に比べ高くなっています。 					
主要施設					
<ul style="list-style-type: none"> (一) 須走小山線 (一) 足柄停車場富士公園線 (都) 御殿場高根線 (都) 高根西部幹線 (都) 茉薺沢棚頭線 					
<ul style="list-style-type: none"> 都市公園はなし 					
供用済合計 - ha (1 人当たり公園面積 - m ²) 市平均 2.72 m ² /人)					
地域の主な景観					
 高根地区田園風景			 わさび田		
 中須館			 キリンディスティラリー		

- 国道 246 号の東側に高根支所のほか住宅地や公共公益施設などの都市的土地区画整理事業が集積しています。
- 地域は田、畑、山林を主体とする自然的土地利用が中心となっています。
- 地域西部は一団の樹林地を形成しています。

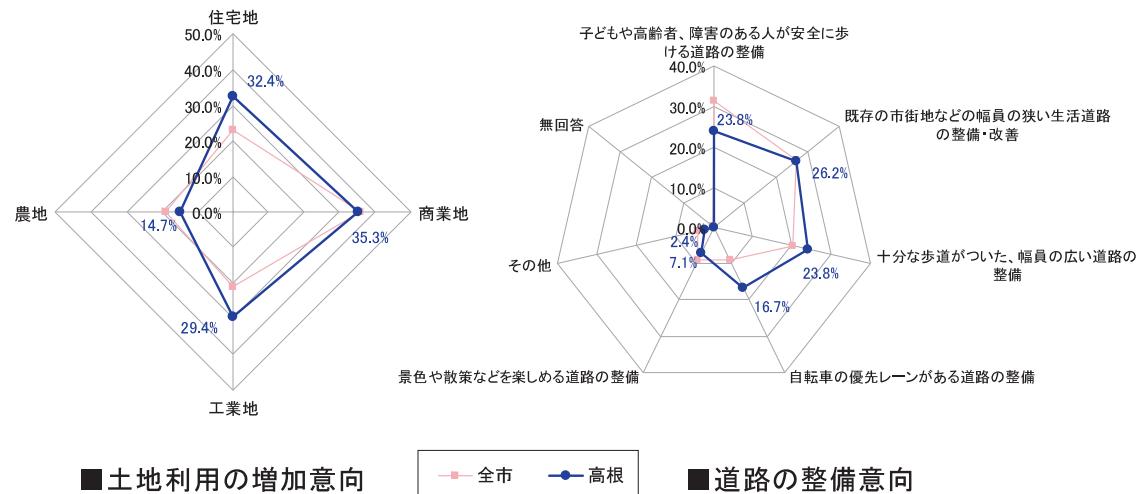


■土地利用現況図（高根地域）

《まちづくりに関する市民ニーズ》

○全市と高根地域との比較（市民アンケート調査の主な結果）

- ・住宅地の増加に関する意向が、全市よりも高くなっています。
- ・自転車の優先レーンがある道路整備に関する意向が、全市よりも高くなっています。



○比較的ニーズが高い項目（30%を超える施設整備のニーズ、市民アンケート調査結果）

- ・自然を満喫できる公園の整備 (33.3%)
- ・生き物や植物が多い自然豊かできれいな川の整備 (38.2%)
- ・住宅の耐震化 (41.7%)
- ・河川や農地などの自然環境に関する景観の整備 (33.3%)
- ・公共交通（バス）の必要性は、今は重要ではないが、将来を考えると必要 (64.7%)

○地域別説明会における主な意見

- ・当地域が将来的に限界集落^{※1}とならないよう、住宅地の創出が可能となる制度を適用した、人口減少を防ぐ手立てを早急に講じてほしい。
- ・新東名やアクセス道路による移転者が地域内に円滑に移転できるように、移転先の道路整備を含む移転調整にあたっては、市も加わってほしい。
- ・地域内の優良農地に対する環境の悪化を防ぐため、新東名の舗装方式については、凍結防止剤等を必要としない技術を採用するよう、市から関係機関に働きかけをしてほしい。

※1：過疎化などで人口の50%以上が65歳以上の高齢者になり、冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難になった集落のことを指す。

2) 高根地域の主な課題

《安心定住》に関する地域の主な課題

- 少子・高齢化、人口減少社会への対応
 - ・地域活力の維持に向けた定住促進
- 都市計画道路等の整備
 - ・歩行者の安全性確保に向けた生活道路の整備
 - ・国道138号の渋滞緩和
 - ・公共交通の利用促進
 - ・新東名高速道路等の整備に伴う移転者対策
- 防災と減災への両面からの対応
 - ・市街地や集落地の防災性の向上

《自然》に関する地域の主な課題

- 人の営みと自然との共生
 - ・田園、里山^{*1}環境の保全・活用
- 自然環境と調和した活力あるまち
 - ・富士山麓の樹林地の保全
 - ・竜良川など豊かな水資源の保全・活用
 - ・自然とふれあえる河川の整備

《活力》に関する地域の主な課題

- 新たな産業の育成や支援
 - ・団地間連絡道路沿いの活用
- 生産性の高い農業の育成
 - ・優良な農地の確保
- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・樹林地を活用した交流促進

《交流》に関する地域の主な課題

- 地域活力の維持や交流人口の拡大
 - ・(仮称) 御殿場インターチェンジ周辺の有効活用
 - ・フェニックス短大跡地及び周辺の土地利用

*1：昔から山菜等の採取や炭焼、落葉の堆肥化などに利用されてきた自然林で、人の営みと自然が共存している地域のこと。近年、自然と身近にふれあえる空間として再評価されている。

(2) 高根地域のまちづくり方針

高根地域のまちづくりのテーマ

水と、稲穂と、ふれあいの郷、高根

～まちづくりの基本的な考え方～

市の穀倉地帯として位置づけられる田園環境、地域内に点在する湧水地、清涼な竜良川などの自然環境を維持、保全しながら、これら資源をまちづくり活用するための検討を図っていきます。また中心地区においては無秩序な市街化を抑制しながら、人々の交流の場の形成を図っていきます。

《安心定住》に資する整備の方針

- ・高根支所周辺は、農村集落や学校施設、広場等の施設が立地していることから、生活道路への歩道設置など、生活利便性の向上に必要な施設整備を目指していきます。
- ・地域活力の維持に向け、既存集落地のまとまりや周辺の営農環境に配慮しつつ、集落内や集落地周辺において、地区計画制度等の活用や優良田園住宅制度の導入による住宅地の創出を促進します。
- ・国道 138 号については、交通の利便性の向上を図るため、渋滞緩和に向けた整備を検討します。
- ・本地域の市街地や集落地など建物が密集する地区は、排水対策、地震対策等のほか、道路の拡幅や建築更新時における壁面後退を促進します。
- ・市の主要な施設との連絡や、高根支所などの地域の主要諸施設等を循環するバス運行の検討を進めます。

《自然》に資する整備の方針

- ・国道 246 号及び新東名高速道路に囲まれた区域や、良好な田園や里山環境が残る地域は、できる限り既存の緑地や水辺を保全・活用し、生態系にも配慮したほ場整備を推進します。
- ・ほ場整備が完了している地域は、農業生産活動の場として効率的な利用を進め、良好な営農環境の維持・充実を図ります。
- ・地域西側に拡がる富士山麓の樹林地は、地域が一体となって適切な維持・管理に努め、良好な緑地環境や水源地の保全を図ります。
- ・竜良川、つつじ川及び点在する湧水池においては、生物の生息、生育に適した水辺環境の保全や自然と触れ合える河川として整備を推進します。

《活力》に資する整備の方針

- ・高根西ふれあい広場周辺は、森林とのふれあいが楽しめる場として、「市民の森」の整備を推進します。
- ・団地間連絡道路沿いの地区については、恵まれた自然環境や交通条件を活かし、観光・交流・保養に資する施設整備を推進します。

- ・新東名高速道路の（仮称）御殿場インターチェンジ周辺は、（仮称）水土野インターチェンジ周辺とともに良好な自然環境と調和を図りつつ、地域の活力の創出に向け土地利用の適切な規制・誘導を図ります。
- ・農産物の生産加工販売までを総合的に行う第6次産業の普及を促進します。

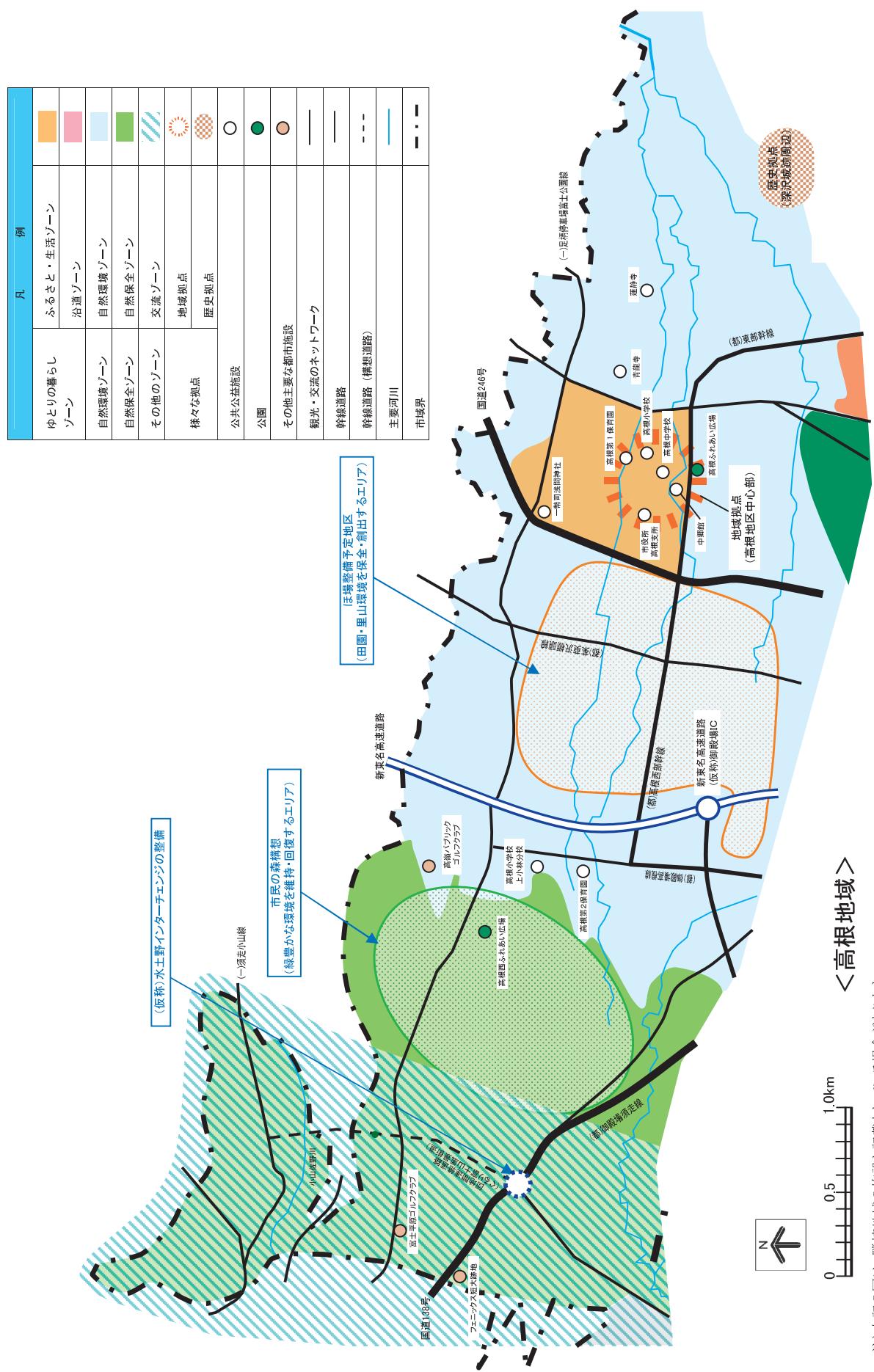
《交流》に資する整備の方針

- ・新東名高速道路の（仮称）御殿場インターチェンジ開設に伴うランプ周辺は、農地等の周辺環境に配慮しつつ、地域住民の合意形成を踏まえ、業務系土地利用のための基盤整備の可能性について検討をします。
- ・団地間連絡道路は、観光・レクリエーション拠点間の連携や工業・流通ゾーンへの連絡機能を担う道路として整備を推進します。
- ・フェニックス短大の跡地及び周辺の土地利用については、文化・スポーツ施設等、交流ゾーンにふさわしい新たな土地利用の誘導を検討します。

《重点整備の方針》

- 住宅地の創出及び定住者対策（優良田園住宅制度）
- 公共交通の整備・拡充（地域内循環バス）
- 優良農地の整備と新東名インターチェンジへのアクセス道路の整備
- 新東名インターチェンジ周辺整備構想及び団地間連絡道路の整備

凡　例	
ゆとりの暮らし ゾーン	ふるさと・生活ゾーン 沿道ゾーン
自然環境ゾーン	自然環境ゾーン
自然保全ゾーン	自然保全ゾーン
その他のゾーン	交流ゾーン
様々な観点	地域観点 歴史観点
公共公益施設	○
公園	●
その他主要な都市施設	○
観光・交流のネットワーク	—
幹線道路	—
幹線道路（構想道路）	---
主要河川	—
市域界	—



注) 上記の図は、隣接地域の施設も記載されている場合があります。

